

2023 年度
自己点検評価年次報告書
【短期大学部】

目白大学短期大学部

部門別「自己点検評価年次報告書」の目的

目白大学・目白大学短期大学部内部質保証委員会

本学の内部質保証は、学長のリーダーシップのもと、大学の理念や方針に従い、現在の教育、研究、管理運営、社会貢献などの活動について、自らが現状を振り返り、向上と健全化を目指すために、ひたむきに改善を継続するプロセスが重要だと考えます。

その目的を果たすために、年度ごとの振り返りを行い、P D C Aサイクルを用いた「報告書」で可視化することで、各教職員や各学科等の現在地や問題点の気づき、改善、あるいは維持のプロセスを確認し、本学の目標の再確認を行います。

この『部門別自己点検評価年次報告書』は、本学の教育活動の主軸である各学部、学科と附属施設及び委員会・センターの自己点検・自己評価です。各部門での教育の改革・改善の振り返りや次年度目標といった改善プロセスを大学内外に公開・共有することで、向上心と改革に前向きな姿勢を持続させ、教育の質の向上と健全化に取り組みます。

目 次

凡 例	1
短 期 大 学 部	3
卒業における学修成果確認試験	19
各 種 委 員 会	23

凡 例

2024年5月1日

本報告書に記載する項目の定義並びに数値の算出方法は以下の通りとします。

- 学生数 …… 正規課程所属の在学生。研究生や科目等履修生は含まない。
(大学院・大学・短大)
- 留学生数 …… 上記「学生数」の中の留学生数の内訳。研究生や科目等履修生は含まない。
(同上)
- 専任教員数 …… 大学学部と短大各学科における所属でカウントするほか、大学院に所属する教員はその専攻でも専任教員として、研究所に所属する教員はその研究所でも研究員としてカウントする。
(本学では人事取扱い上、全ての大学教員は学部または短大のみに専属し、大学院は当該研究科所属であっても併任扱いとなっているが、本報告書で全ての大学院教員をカウントしないことは実態から乖離し、本報告書の趣旨にそぐわないため)
- 授業科目数 …… その学期に設定されている授業科目の数。
- ・ 学則に記載されている専門教育科目(学部共通科目を含む)、及び学科別開講の共通科目を基準とする。ただし、履修登録前に閉講が確定している(隔年開講・教員急病など)科目はカウントしない。
 - ・ 1つの授業に複数のコマが設定されていても1科目と数える。
 - ・ 履修学生ゼロによる閉講科目は1科目と数える。
 - ・ 新カリキュラム・旧カリキュラムで科目名が変わるが同じコマで実施している場合は2科目・1コマでカウントする。
 - ・ 「臨地研修」など、開講年度・学期の履修登録期間(閉講講義確定)以後に、学生による履修登録によらず開講が確定する科目は、実績に基づき開講された科目数をカウントする。
 - ・ 学外実習科目・卒業研究・留学期間の振替対応科目・臨地研修は1科目としてカウントするが、コマ数はカウントしない(学内で実習報告の授業等を行うことがあっても同様)。
 - ・ 再履修用授業を別途に実施している場合は、同一科目名であれば本体の授業と別扱いせず、コマ数のみカウントする。
 - ・ 通年実施の科目、及び卒業研究や臨地研修など学期ごとに完結する実態のない科目は「通年/その他」に分類して数える。
 - ・ 同一科目を複数の学科の学生と一緒に履修する形態で実施している場合は、それぞれの学科に全コマ数を加算する(全学科の合計コマ数が実態より多くなる)。
 - ・ 学部共通の専門教育科目は科目数・コマ数ともに各学部所属学科に単純加算する(全学科の合計科目数・コマ数が実態より多くなる)。
- 開講総コマ数 …… その学期に実際に開講(≠実施)されているコマ数の合計。
- ・ 学則に記載されている専門教育科目(学部共通科目を含む)、及び学科別開講の共通科目を基準とする。
 - ・ 1つの授業に複数設定されているコマは別々に数える。
 - ・ 開講したが結果的に履修学生が開講基準以下で実施しない場合も、コマ

- としてカウントする。
- ・ 8回授業等の場合は教務課のコマ数換算方法に準拠する。
 - ・ 非常勤講師の担当コマ数については実績に従い算出し、小数点第2位で四捨五入する。
- 進路状況 …… 年度末で確定した、卒業生の進路状況。
- ・ 就職は正規雇用または非正規雇用（契約社員（1年以上または1年未満）で就職した卒業生、進学は大学院、大学、専門学校、留学が確定した卒業生、その他はアルバイト、家事手伝い、結婚、資格取得準備中、進学準備中、留学準備中、公務員試験準備中、科目等履修生、研究生、聴講生の卒業生とする。
- 論文数 …… シート提出組織（学科）に所属する1名以上の構成員が執筆した件数の合計。
- ・ 複数の構成員が共同執筆していた場合、その学科で1件と数える（1件の共同執筆論文について構成員の人数分だけ件数がプラスされることはない）。
 - ・ 他の学科教員が共同執筆者に含まれていた場合、それぞれの学科で1件と数える（この結果、全学科の件数合計は実際の論文件数より多くなる可能性がある）。
- 学会発表件数 …… シート提出組織（学科）に所属する1名以上の構成員が発表した件数の合計。
- ・ 複数の構成員が共同発表していた場合、その学科で1件と数える（1件の共同発表について構成員の人数分だけ件数がプラスされることはない）。
 - ・ 他の学科教員が共同発表者に含まれていた場合、それぞれの学科で1件と数える（この結果、全学科の件数合計は実際の発表件数より多くなる可能性がある）。
- 科研費助成金 …… シート提出組織（学科）に所属する1名以上の構成員が獲得した件数と金額の合計。
- ・ 研究代表者のみカウント（2研究課題を採択されているものは、2とカウント）
 - ・ 分担金配分前の総配分額（直接経費・間接経費の合計）を記載。
 - ・ 延長課題（当該年度配分なし）は含まない。
 - ・ 年度途中での退職者分も含む。
 - ・ 厚生労働省科研費も含む。
- 特別研究費 …… シート提出組織（学科）に所属する1名以上の構成員が獲得した件数と金額の合計。
- （教育研究環境整備助成は研究内容に着目するのではなく当該年度の新任者の研究環境整備のために支給されるものなので、本欄では除外する。）
- 他学科等所属専任教員数 …… 授業科目数にカウントした科目を担当する他学科所属の専任教員数。

以上

短期大学部

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート4 (短大学長・学部長・研究科長)	評価対象年度	2023年度(令和5年度)
カテゴリー	教育課程(総括)		
学部名・研究科名	短期大学部		
記入者氏名(役職)	山田 隆文(学長)		

(1) 特筆すべき事項
<p>【教育(学生指導を含む)】</p> <p>① 講義、実習(臨床・臨地実習を含む)は、すべて対面で実施した。 ClassroomやZoom、Schoo Swing等のICTスキルの環境が整備されたことで、遠隔授業のノウハウを利用して、資料配信、課題提出、小テスト等が効率化し、学生の学修成果の修得状況がリアルタイムでの把握が可能になり、学生の学修効率の向上と、教員の負担が軽減できた。</p> <p>② 「目白大学短期大学部特待生奨学金制度」は50名受験し12名(製菓学科2名、ビジネス社会学科8名、歯科衛生学科2名)合格、優秀な学生を確保できた。</p> <p>③ メジプロ(eラーニング)を用いた入学前教育は、ベーシックコースを3教科から5教科の習得を目指し、ほぼ100%の実施率であった。確認テストによる効果測定を2回実施し、基礎学力の把握することで教育に反映をし、また、ベーシックセミナーでステップアップコースを指導</p> <p>④ インターンシップ(製菓学科・ビジネス社会学科)受け入れは回復傾向にある。</p> <p>⑤ ディプロマ・ポリシーに基づく「卒業における学修成果アセスメントテスト基準」による学修成果確認試験は、3学科全学生が合格をした。</p> <p>⑥ 国家資格は製菓学科では33名、歯科衛生学科では57名(既卒4名を含む)が合格をした。 その他の資格取得、資格取得奨励金の授与者は昨年度に比べて半減している。</p> <p>⑦ 就職支援部において全学生に面談を実施した。内定率は100%(求職者に対する)である。</p> <p>⑧ 編入要件の見直しを実施し、大学への編入は12名(学内11名、学外1名)で昨年より大幅に増加した。</p> <p>【研究】</p> <p>① 短期大学部独自で以下のようなFDを実施した。 研究発表会は9回実施し、各教員の研究テーマ等の共有を行った。 研究交流会は2回実施し、学内教員による「教学マネジメントの用語について」の勉強会、また、日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター経営支援室主幹内藤貴宏氏を講師として招聘し「短期大学の現状について」の講演を実施した。 教員相互授業参観は100%の実施率であり、他学科の教員の授業も参観することにより教育の向上を目指した。</p> <p>② 「学生による授業評価アンケート」には、各教員が改善点をフィードバック、積極的にスキルアップを行っている。結果は図書館に配架し公開をしている。</p> <p>③ 研究紀要への発表数は5編と半減した。</p> <p>【管理運営】</p> <p>① 会議は対面とZoom開催を併用し、情報共有は効率的に実施されている。</p> <p>② 「外部評価委員会」を開催し、本学自己点検評価に対する客観的な意見を得られた。</p> <p>③ 2021年度より実施している「高大連携のための懇談会」を2回、「企業との懇談会」を実施し、ステークホルダーとの重要な意見交換を行った。</p> <p>【社会貢献】</p> <p>① 公開講座は3学科とも対面で実施をしたが、学科ごとに参加者数に差があり、テーマによっては伸び悩んだ。ターゲットの絞り込み等検討が必要である。</p> <p>② 製菓学科は、中高生を対象の体験実習を5回実施した。</p> <p>③ 新宿区「大学等の連携による商店街支援事業」、新宿区健康部との包括連携による「保育園・幼稚園等歯科健康教室」の2024年度からの実施が決定した。</p>

(2) 今後の課題
<p>【教育(学生指導を含む)】</p> <p>① 教員の教育力の資質向上を目指し、学生主体の教育ヘシフトし、「育てて送り出す」を体現するための情報共有と、若手の育成を行う。</p> <p>② 「目白大学短期大学部特待生奨学金制度」の入学後の成績等の効果測定を行い、試験制度の見直しと、優秀な志願者の確保を継続する。</p> <p>③ メジプロ(eラーニング)等の効果測定を総合的に分析し、エンrollment・マネジメントの一環として、支援の必要な学生の早期発見・早期の修学支援体制を確立し、ミスマッチングを防ぐことによる休・退学の減少に努める。また、入学後のステップアップコースへ100%の誘導を検討する。</p> <p>④ インターンシップ先の開拓と連携強化(製菓学科・ビジネス社会学科)、臨床・臨地実習先の開拓(歯科衛生学科)をさらに図る。</p> <p>⑤ 学修成果の明文化、各学科のVisionを元にしたディプロマ・ポリシーを見直し、学生の主体的な学びによる学修成果の可視化を行う。</p> <p>⑥ 国家資格(製菓衛生師、歯科衛生士)の合格率向上のため、教育・学生支援体制を整備、種々の資格取得への資格取得奨励金の再検討を行う。</p> <p>⑦ 学生のニーズと求人の就職環境の激変に対応するため、入学早期よりキャリア意識を効果的に高められるような支援を実施する。</p> <p>⑧ 目白大学への円滑な編入体制が構築され、志願者増加に連動するよう、2024年度にカリキュラム改革を行ったビジネス社会学科の募集状況を検証する。</p> <p>【研究】</p> <p>① 短期大学FDをさらに充実させ、教員の教育力・研究力向上、研究活動活性化のために、教員の自己研鑽、教育力向上のための支援体制を構築</p> <p>② 外部資金等の獲得のための研究支援体制を構築する。</p> <p>③ 執筆に対しての相談・指導体制を強化し、完成に導くためのサポートを行い、紀要を含む研究活動成果の公表を推進する。</p> <p>【管理運営】</p> <p>① 各学科の将来構想を元に、ディプロマポリシーに即した教育を実現するためのカリキュラム改革、教員の採用計画など、計画的な運営をめざす。</p> <p>② 教員のワークエンゲージメント、ワークバランスの構築のために、学科を超えて教員間の懇談の機会を増やすなど、意思疎通の円滑化を図る。</p> <p>③ 学科を超えた情報の共有を徹底し、PDCAを意識しての運営を徹底する。</p> <p>【社会貢献】</p> <p>① 大学の魅力の発信力アップのため、教員の研究成果の公開や、産学官連携のために地域連携・研究推進センターと協力し、情報公開を強化する。</p> <p>② 学生の地域貢献を推進する仕掛けを作り積極的に進める。</p> <p>③ 公開講座の実施内容・実施時期・ターゲットを検討し、より参加者増加のための広報・地域連携を強化する。</p>

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1	学科名	製菓学科					
評価対象年度				2023年度(令和5年度)						
入学定員		55名	設置基準上の 必要教員数	専任教員数	5名					
収容定員		110名		教授内数	2名					
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	47名	専任教員数 (5/1現在)	教授	2名	特任内数	0名	博士内数	0名	
	2年	62名			1名	0名	0名			
	3年	0名			2名	0名	0名			
	4年	0名			0名	0名	0名			
	計	109名			5名	0名	0名			
留学生数 (5/1現在)	1年	0名		他学科等所属専任教員数(5/1現在)	計	8名	内非常勤 担当	19コマ	12.3コマ	0コマ
	2年	0名	非常勤講師数(5/1現在)		3名	0名				
	3年	0名		9名	春学期	24コマ				
	4年	0名				授業科目数				
	計	0名	0コマ	通年/その他	0コマ					
休学者数(年度末集計)		1名	開講総コマ数	春学期	68コマ	内非常勤 担当	19コマ	12.3コマ	0コマ	
退学・除籍者数(年度末集計)		0名		秋学期	52コマ					
進路状況 (年度末集計)	就職	54名	論文数 (年度末集計) ※刊行日基準	通年/その他	0コマ					内非常勤 担当
	進学	3名		学会誌	件					
	その他	2名		紀要	1件					
	計	59名		その他	件					
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		0件	0千円	書籍等出版物		件	内国外	件	件	
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件	0千円	学会発表件数(年度末集計)		件				内国外
社会貢献関連項目		件数	具 体 例							
産学連携(企業・団体)		0件								
地域連携(自治体・団体)		0件	体験実習は5回実施した。、バレンタイン実習は1日体験型に内容を変え「製菓フェス」として実施した。「公開講座」は、洋菓子制作を実施した。							
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載		5件	東京和菓子協会本部理事(運営委員) 東京和菓子協会本部理事(監査役) 一般社団法人 日本食育学会 一般社団法人東京都洋菓子協会 日本栄養改善学会							
その他社会貢献事業 (高大連携など)		0件								

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2023年度(令和5年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	製菓学科		
記入者氏名(役職)	伊藤 浩正(学科長)		

項目	2022年度 自己点検評価
教育 (学生指導含む)	課題と2023年度の改善目標(Action) ① 対面での授業を継続するにあたり、アクリル板の使用、マスク着用に関する授業実施内容を検討する。 ② 退学者を最小限に抑える。 ③ 見直した講座内容を継続して実施する。 ④ 感染症対策内容が5類に移行することにより授業実施態勢を検討する。 ⑤ 学生の就職活動が学科教員で共有できる体制を構築する。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 実習室でのマスク着用、デモンストレーションを見る学生の位置や更衣室の人数制限に関して使用方法について見直しを図る。 ② 欠席過多、体調不良の学生は、学科で情報共有し、早期に本人もしくは保護者と連絡を取り現状を把握する対策を取る。 ③ 引き続き全員合格を目指す。 ④ 実習室、更衣室の人数制限なしなどを実施していく。 ⑤ 学生個々の就活状況を紙面、もしくはGoogleドライブで共有して管理する。

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
教育 (学生指導含む)	1. 取組状況(Do) ① 実習室、更衣室の使用方法について見直しを図り、コロナ禍以前の使用方法に戻した。引き続きGoogleクラスルーム、SchooSwingは活用した。 ② 欠席過多、体調不良が長引いている学生は、担任が学生もしくは保護者と連絡を取り現状を把握し学科で情報共有し対策を講じた。 ③ 前年度、科目ごとにテストを実施する講座内容から、本番と同様の「模擬テスト」形式で講座を実施した。 ④ コロナ禍以前の授業形態に戻したが、衛生面の観点からも実習授業に関してはマスク着用は引き続き遂行した。 ⑤ 毎月就活状況の報告を紙面で提出することとし実施できた。
	2. 点検・評価(Check) ① 実習室、更衣室の使用に関しては滞りなく実施できた。桐和祭の製造販売に関しても滞りなく実施できた。 ② 退学者は0、復学生2名であった。 ③ 製菓衛生師資格試験は33名が受験し33名全員が合格した。合格率100%であった。 ④ 新型コロナのクラスター等の発生はなく、数名の罹患者は出たものの、大勢に影響が出ることはなかった。 ⑤ 就活状況の紙面での報告は毎月提出率を集計しているが、平均すると概ね87.5%程度となっている。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action) ① 実習室でのマスク着用試食以外の食事の禁止、更衣室は更衣のみ速やかに使用するなど使用方法について徹底を図る。 ② 引き続き退学者及び休学者を最小限に抑える。 ③ 出題配分及び配点の割合が変更になっていたので対策を講じる。 ④ 感染症が終息していないので、引き続き学内での感染に注意を図る。 ⑤ 就職を希望している学生に対しは、早期より声がけをし就職活動を促す。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 実習室、更衣室の使用方法について徹底を図る。事前事後学習用のGoogleクラスルーム、SchooSwingは引き続き活用する。 ② 欠席過多、体調不良の学生は、担任が学生もしくは保護者と連絡を取り現状を把握し学科で情報共有し、早期に対策を講じる。 ③ 本年度の出題傾向の分析を講じる。 ④ コロナ禍以前の授業形態に戻すが、衛生面の観点からもマスク着用は引き続き遂行する。 ⑤ 学生の就職活動が学科教員で共有できるよう毎月の会議で報告、共有する。

項目	2022年度 自己点検評価
研究	課題と2023年度の改善目標(Action) ① 短大研究発表会に向けて発表順に合わせテーマに沿った発表の準備をする。 ② 取り下げる結果となった紀要があるので本人の希望に応じて助言をする。 ③ できる限り希望のゼミに配置させ、期日内で課題提出できるよう指導する。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 滞りなく発表ができるよう、発表順に合わせテーマに沿った発表の準備をする。 ② 紀要の投稿が採択に結びつくよう本人の希望に応じて助言をする。 ③ 出来るだけ希望のゼミに配置させ、人数が偏るようなら例年通りオリエンテーション時に抽選など調整をする。

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況 (Do)
	① 短大研究発表会は個別発表と任意のテーマを設けての発表がなされた。 ② 紀要投稿数は1本であった。 ③ 希望のゼミに配置させ、人数が偏らないよう配慮できた。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 担当発表者は滞りなく発表がなされた。 ② 投稿した結果、1本が採択となった。 ③ 卒業年次生全員が学期内に提出することができた。
研究	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 短大研究発表会に向けて発表の準備をする。 ② 出来る限り毎年1本は紀要を投稿するよう促し個別の面談の際意向を聴取し必要に応じて支援する。 ③ できる限り希望のゼミに配置させ、期日内で課題提出できるよう指導する。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 滞りなく発表ができるよう、発表の準備をし、テーマが決められている場合は沿うよう準備をする。 ② 紀要の投稿が採択に結びつくよう本人の希望に応じて助言をする。 ③ 希望のゼミに配置させ、人数が偏らないよう配慮し期日内完了提出を目指す。

項目	2022年度 自己点検評価
管理運営	課題と2023年度の改善目標 (Action)
	① 感染症が収束していない観点から、引き続き対策を講じる。 ② 学科長連絡会により3学科共通の課題解決に努める。 ③ 学科内人事計画について、早期並びに慎重な対応に努める。 ④ 今後感染が拡大した時の対応を検討する。 ⑤ 入学者確保の観点から個別面談を必ず取り入れるシステムの構築を目指す。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 感染症の状況を注視して、マスク着用は必須とする。 ② 学科長連絡会は定期及び必要に応じて臨時で開催し3学科協力する。 ③ 学科内人事計画について早期に学科内で協議し任用申請を提出する。 ④ 感染症の状況に合わせ必要に応じて保護者への説明をする。 ⑤ 入試広報部との連携を検討する。

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況 (Do)
	① 感染症は終息していないものの実習では衛生上の観点からもマスク着用で実施した。 ② 学科長連絡会は定期、臨時で開催した。 ③ 本年度は専任教員の異動は無かったが、非常勤講師の退職に伴う任用があった。 ④ 再度の遠隔授業は実施することなく、保護者対応はなかった。 ⑤ 入試広報部との連携は取れていたものの入学者定員充足はならなかった。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 罹患した学生は数名いたが、授業を介しての罹患はなかった。 ② 学科長連絡会は定期及び必要に応じて臨時で開催し3学科協力できた。 ③ 現状と数年先を見据え、若手教員の育成が早急の課題と思われる。 ④ 通年、対面授業を実施できたことから保護者への説明、対応はなかった。 ⑤ 個別面談必須、確認印の必須を実施したが効果としては現れず、製菓学科には逆効果だったと思われる。
管理運営	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 感染症が完全に終息して観点、衛生上の観点からもマスク着用で実施していく。 ② 引き続き3学科で協力し情報共有に努める。 ③ 次年度は専任教員の任期満了、更新が数名あるので早期の対応が必要である。 ④ 再度感染症の流行があった場合は必要に応じて保護者対応を講じる。 ⑤ オープンキャンパスは3学科共通より学科独自を重視することを念頭に構成が必要と思われる。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 感染症の状況を注視して、マスク着用は必須とする。 ② 学科長連絡会は定期及び必要に応じて臨時で開催し3学科協力する。 ③ 学科内人事計画について正副学長、学科内で協議し早期に任用申請を提出する。 ④ 感染症の状況を注視し、必要に応じた対応を検討する。 ⑤ オープンキャンパスは3学科共通より学科独自を重視することを念頭に構成していく。体験実習においても内容を検討する。

項目	2022年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2023年度の改善目標 (Action)
	① 毎回ではあるが、体験実習の内容の精査。バレンタイン実習は実施内容を検討する。 ② 引き続き連携できる企業の規模について検討が必要である。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① バレンタイン実習に代わる内容で企画検討する。(1日体験実習等) ② 個人店で連携できるかを検討する。

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会貢献	1. 取組状況 (Do) ① バレンタイン実習を製菓フェス(1日体験実習)参加者27名、また体験実習は5回実施した。①5月9名参加、②6月10名参加、③7月15名参加、④8月22名参加、⑤3月18名参加。公開講座は参加者18名で滞りなく実施できた。 ② 企業との連携はできていない。
	2. 点検・評価 (Check) ① 体験実習及びオープンキャンパスでの学び体験も実習型に変更した。 ② 引き続き連携できる企業の規模について検討が必要である。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action) ① 体験実習及びオープンキャンパスでの学び体験の内容をデモ見学から実際に実習する形に変える検討をする。 ② 個人店で連携できるかを検討する。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan) ① 幅広い学びになるよう体験実習、学び体験の内容を検討する。 ② 連携できる会社の規模や内容について検討する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1	学科名	ビジネス社会学科				
評価対象年度				2023年度(令和5年度)					
入学定員		75名	設置基準上の 必要教員数	専任教員数	7名				
収容定員		150名		教授内数	3名				
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	51名	専任教員数 (5/1現在)	教授 准教授 専任講師 助教 計 助手	3名	特任内数	0名	博士内数	0名
	2年	75名			0名	0名	0名		
	3年	0名			0名	0名	0名		
	4年	0名			0名	0名	0名		
	計	126名			9名	0名	0名		
留学生数 (5/1現在)	1年	0名	他学科等所属専任教員数(5/1現在)	0名					
	2年	0名		0名					
	3年	0名		0名					
	4年	0名		0名					
	計	0名		0名					
休学者数(年度末集計)		0名	授業科目数	春学期	20コマ				
退学・除籍者数(年度末集計)		3名		秋学期	29コマ				
				通年/その他	0コマ				
進路状況 (年度末集計)	就職	62名	開講総コマ数	春学期	41コマ	内非常勤 担当	11コマ		
	進学	10名		秋学期	45コマ		17.1コマ		
	その他	2名		通年/その他	0コマ		0コマ		
	計	74名		学会誌	2件	件			
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		1件	520千円	論文数 (年度末集計) ※刊行日基準	紀要	3件	内国内外	件	
					その他	1件		件	
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件	0千円	書籍等出版物		4件	内国内外	件	
				学会発表件数(年度末集計)		6件		件	
社会貢献関連項目		件数		具 体 例					
産学連携(企業・団体)		1件		①第52回国際ホテル・レストランショーにおいて「宿泊業のスマート化研究会」ブースにおいて「パンケット部門におけるスマート化(IT化)」に関する発表					
地域連携(自治体・団体)		1件		①本郷法人会 文京区本郷法人会 中小事業者がより自立した経営を目指すための講座の実施					
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載		9件		①秘書サービス接遇教育学会 理事 ・秘書サービス接遇教育学会の全国大会は対面の開催となり、研究集録の発刊も通常通り行った。 ②日本インターンシップ学会 理事 ③日本インターンシップ学会 広報委員委員長 ④日本インターンシップ学会 東日本支部副支部長 ⑤実務技能検定協会 理事 ⑥日本ビジネス実務学会 常任理事、理事 ⑦日本ビジネス実務学会 研究推進委員会委員長 ⑧日本ビジネス実務学会 関東・東北ブロック研究会運営委員 ⑨実務技能検定協会 監修 ・ビジネス系検定の検定問題の校閲を行った。					
その他社会貢献事業 (高大連携など)		0件							

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2023年度(令和5年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	ビジネス社会学科		
記入者氏名(役職)	上岡 史郎(学科長)		

項目	2022年度 自己点検評価
教育 (学生指導含む)	課題と2023年度の改善目標(Action)
	① 2023年度もモデル時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行い、課題であるカリキュラムツリー、カリキュラムマップ、科目ナンバリングについての説明もベーシックセミナーを通して行っていく。
	② 前年度に比べて退学者数が変わらなかったことが課題と考える。引き続き学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を共有することで退学者減少を目指す。
	③ これらのシートを作成することで、どこまで学生が自己の振り返りができているかが課題である。これらを含めて、引き続き1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成を行い、また1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が学生の評価を確認していく。
	④ 毎学期ごとの保護者への成績表配布のほかに、年3回の学科新聞の送付など保護者への情報提供をより積極的に進めることができ、また保護者会後の個人面談等を通して、保護者との密な関係を保つことができた。
	⑤ すべての授業が対面授業となったことで、実習授業を中心に対面授業ならではのアクティブラーニングを取り入れた授業を行うことができた。講義科目や演習科目についても、直接学生と直接関われることで、学生への指導を決め細かく行っていくことができた。
	⑥ 保護者会については対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行うことで、たくさんの保護者の方に参加していただいたため、次年度も同じ形式で行ってきたい。
	⑦ 2022年度はすべての学生がベーシックコースとステップアップコースを終了することができたが、期限までに終了していない学生がいたことが課題である。2023年度は期日までに終了することを目指していきたい。
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① 2023年度もモデル時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行い、課題であったカリキュラムツリー、カリキュラムマップ、科目ナンバリングについての説明は1・2回のベーシックセミナーを通して行っていく。

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況(Do)	① 2023年度もモデル時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行い、カリキュラムツリーについての説明をベーシックセミナーを通して行った。
	② 2023年度も学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有し退学者減少を目指した。2023年度は、メンタル面と経済面に問題を抱えている学生が多かったため、メンタル面は学生相談室と経済面は学生課と連携を取りながら学生の状況を把握するように努めた。
	③ 2023年度も1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成し学生が自己の振り返りをシートに記入することで、自己の学生生活状況を振り返ることを行った。また1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が学生の評価を確認し、それにもとづき個人面談を行った。
	④ 2023年度も毎学期ごとの保護者への成績表配布と学科新聞の送付など、保護者への情報提供をより積極的に進めた。また保護者会後の個人面談等も引き続き実施し、保護者との密な関係を保つことができた。
	⑤ 2023年度も秘書系授業や接客マナー系授業などの実習や演習の科目を中心にアクティブラーニングを取り入れた授業を行っていくことができた。
	⑥ 2023年度も保護者会については対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行った。対面で21家庭、23名が出席し、リモートでは2名が出席した。リモートでの参加者は少なかったが、ご家庭の都合で急遽リモートに移行した保護者がいるなど、出席者を増やすことができた。
	⑦ 2023年度は退学者を除いてすべての学生がベーシックコースとステップアップコースを終了することができた。これも毎月の学科会議後の学科FD委員会で各クラスの進捗状況を把握することで、学生指導の促進につなげることができた。
	2. 点検・評価(Check)
	① ビジネス社会学科は、4つのフィールドで10単位以上を取得する条件があるため、学生個々に合わせた履修指導を行う必要がある。2023年度もモデル時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行うことができた。また、学生便覧を使ってカリキュラムツリーについての説明をベーシックセミナーを通して行ったが、学生便覧に掲載されていないカリキュラムマップや、科目ナンバリングまでの説明を行うことができなかった。
	② 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有し退学者減少を目指し、2023年度入学生の退学は2名と退学を抑えることができた。また、2023年度は、メンタル面と経済面に問題を抱えている学生が多かったため、春学期については、ベーシックセミナー後に1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めることが退学率の低減につながったと考える。メンタル面は学生相談室と経済面は学生課と2022年度以上に連携を取りながら学生の状況を把握するように努めることができた。今後もメンタル面や経済面で問題を抱える学生が増えることが考えられるため、教員間だけでなく、学生課との連携を深めていくことが必要である。
③ 1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成し学生が自己の振り返りをシートに記入するだけでなく、1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が目標設定と振り返りのシートを個人面談等の学生指導に生かすことができた。	
④ 毎学期ごとの保護者への成績表配布と学科新聞の送付など、保護者への情報提供だけでなく、保護者会後の個人面談等や出席不良な学生の保護者への連絡などなるべく双方向でのコミュニケーションを取ることができたことはよかった。	
⑤ ビジネス社会学科専門科目は講義科目も多く、単調になりがちであるが、秘書系授業や接客マナー系授業などの実習や演習の科目を中心にアクティブラーニングを取り入れた授業を行っていくことができたことはよかった。学生が興味をもって授業に参加できる体制をこれからも作ってきたい。	

教育 (学生指導含む)	⑥ ビジネス社会学科は地方や遠方の保護者も多いため、保護者会を対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行い、少しでも参加者を増やすことができたことはよかった。次年度も対面とリモートの併用での保護者会を検討していきたい。
	⑦ 退学者を除いてすべての学生がベーシックコースとステップアップコースを終了することができたことはよかった。しかし、どうしても期日より遅れてしまう学生もおり、そのような学生に対して、どのように指導をしていくかが今後の課題である。引き続き毎月の学科会議後の学科FD委員会で各クラスの進捗状況を把握しつつ、これらの学生についての学生指導の方法を検討していきたい。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 2023年度もモデル時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行い、学生便覧を使ってカリキュラムツリーについての説明をベーシックセミナーを通して行うことができたが、学生便覧に掲載されていないカリキュラムマップや科目ナンバリングまでの説明を行うことができなかった。2024年度は第1回と第2回のベーシックセミナーを通して、カリキュラムマップや科目ナンバリングの説明も行っていききたい。 ② 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有することで退学者減少を目指し、春学期については、ベーシックセミナー後に1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めることが退学率の低減につながることができた。2024年度は新入生が大幅に増え、学力の格差が大きくなるのがわかっているため、今まで以上に学生状況の把握が必要となることが考えられる。学習面でのフォロー体制に加えて、引き続きメンタル面や経済面で問題を抱える学生の把握と指導のため、教員間だけでなく、学生課との連携を深めていく。 ③ 学習面やメンタル面、経済的な問題を抱えている学生をフォローしていくためには、いままで以上に教員間や学生課との連携や保護者とのコミュニケーションが必要となってくる。クラス担任一人が学生と向き合うのではなく、学科全体で学生指導にあたっていく。 ④ 今後も増えることが予想される出席不良な学生やメンタル面、経済的な問題を抱えている学生をフォローしていくためにも、引き続き保護者への連絡などを密に取っていく。 ⑤ 学習意欲の低い学生に対して、どのようにアプローチをしていくかが課題である。教員間での授業参観なども生かしつつ、学生が学習意欲を高められる授業スタイルを研究していく。 ⑥ ビジネス社会学科は入学式後と保護者会で保護者と直接コミュニケーションをとる機会をとっている。今後も少しでも保護者の方々や直接会話がとれる保護者会への参加を増やしていく努力をしていく。そのためには保護者会については対面だけでなく、リモートも併用して、参加者を増やしていく努力を引き続き行っていく。 ⑦ メジプロについて期日より遅れてしまう学生がおり、そのような学生に対して、どのように指導をしていくかが今後の課題である。引き続き毎月の学科会議後の学科FD委員会で各クラスの進捗状況を把握しつつ、これらの学生についての学生指導の方法を検討していく。
4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)	
① 学生個々に合わせた履修指導を行っていく。2024年度もモデル時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行っていく。また、学生便覧を使ってカリキュラムツリーだけでなく、カリキュラムマップや科目ナンバリングの説明についてもベーシックセミナーを通して行っていく。 ② 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有し退学者減少を目指す。また引き続き、メンタル面と経済面に問題を抱えている学生についての支援・指導を強化するため、春学期については、ベーシックセミナー後に1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めることが退学率の低減につながっていく。メンタル面は学生相談室と経済面は学生課との連携も取りながら学生の状況を把握するように努めていく。 ③ 引き続き、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成し学生が自己の振り返りをシートに記入するだけでなく、1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が目標設定と振り返りのシートを個人面談等の学生指導に生かしていく。昨年度から試験的に導入した学科版エンrollmentマネジメントのシートを今年度も試験的に導入するよう、次年度以降、本格的な導入に向けて検討していく。 ④ 毎学期ごとの保護者への成績表配布と学科新聞の送付など、保護者への情報提供だけでなく、保護者会後の個人面談等や出席不良な学生の保護者への連絡などなるべく双方向でのコミュニケーションを取ることで保護者との連携を強めていく。 ⑤ 引き続き、秘書系授業や接客系授業などの実習や演習の科目を中心にアクティブラーニングを取り入れた授業を行っていく。アクティブラーニングなど学生が主体となって考えていく授業を増やすことで、学生が興味をもって授業に参加できる体制をこれからも作っていききたい。 ⑥ ビジネス社会学科は地方や遠方の保護者も多いため、保護者会を対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行い、少しでも参加者を増やす努力を行っていく。次年度も対面とリモートの併用での保護者会を検討していく。 ⑦ 引き続きすべての学生が期日までにベーシックコースとステップアップコースを終了するように指導していく。そのために、引き続き毎月の学科会議後の学科FD委員会で各クラスの進捗状況を把握しつつ、これらの学生についての学生指導の方法を検討していく。	

項目	2022年度 自己点検評価
研究	課題と2023年度の改善目標 (Action)
	① 紀要への投稿は順調に行われ、学会での報告や論文も行うことができた。2023年度は昨年度以上に学会報告を行っていききたい。 ② 問題なく研究報告が行われているため、2023年度も引き続き行っていききたい。 ③ 問題なく授業参観が行われているため、2023年度も引き続き行っていききたい。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 2023年度も紀要への投稿や学会での報告、論文投稿などを積極的に行っていく。 ② 2023年度に就任した教員に加えて、様々な教員の研究報告を行っていく。 ③ 2023年度も学科のすべての教員が授業参観に参加し、積極的に他の教員の教育技法を学ぶことで学生への教育効果の向上を目指す。

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研	1. 取組状況 (Do)
	① 紀要への投稿は5本から3本と減少した。一方で学会誌の投稿が1本から2本へと、学会発表が3本から6本へと増やすことができた。 ② 毎月担当する教員が研究報告を問題なく行っている。 ③ 年2回の授業参観を学科教員全員が問題なく行っている。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 紀要への投稿は5本から3本と減少した。一方で学会誌の投稿が1本から2本へと、学会発表が3本から6本へと増やすことができた。 ② 毎月担当する教員が研究報告を問題なく行っている。 ③ 年2回の授業参観を学科教員全員が問題なく行っている。

究	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 2023年度は論文投稿数が減少したため、2024年度は学科の教員全員が、紀要または学会誌の投稿を行っていく。
	② 毎月担当する教員が研究報告を問題なく行っているため、2024年度も引き続き行っていきたい。
	③ 年2回の授業参観を学科教員全員が問題なく行っているため、2024年度も引き続き行っていきたい。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 2024年度は学科の教員全員が、紀要または学会誌の投稿を行っていく。
	② 毎月担当する教員が研究報告を2024年度も引き続き行っていく。
	③ 年2回の授業参観を2024年度も引き続き行っていく。

項目	2022年度 自己点検評価
管理運営	課題と2023年度の改善目標 (Action)
	① 問題なく学生情報の共有が行われているため、2023年度も引き続きこの体制を整えていきたい。
	② 次回の認証評価に向けての準備は進んでいない。前回の認証評価の3つの意見の確認を行っていく。
	③ 対面授業とリモート授業で構築したICTツールを活用しつつ、新たなLMSも活用していきたい。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 引き続き学科内で出欠状況や就活状況などの学生情報を全教員が随時情報を共有することができる体制を整えていく。
	② 7年後の認証評価に向けて、前回の3つの意見を精査し、次回に向けて準備を行っていく。
	③ 引き続きGoogle ClassroomなどのITCツールの活用と新たに導入するLMSも活用することで、学生のコミュニケーションをスムーズにとれる体制を整えていく。

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況 (Do)
	① 学科会議後のFD委員会やベシクセミナー担当者会議などを活用して、学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができる体制を整えることができた。
	② 7年後の認証評価に向けて、今回の3つの意見を精査し、次回に向けて準備を行えていない。
	③ Schoo SwingやGoogle ClassroomなどのITCツールを活用することで、学生のコミュニケーションをスムーズにとれる体制を整えることができた。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 学科内で出欠状況や就活状況などの学生情報を全教員が随時情報を共有することができ、退学率の低減に結びつけることができた。
	② 3つの意見を精査し、次回の認証評価に向けて準備を行うことはできなかった。
	③ 対面授業による学生へのきめ細かな対応と、Schoo SwingやGoogle ClassroomなどICTツールを効果的に活用することで、より充実した教育環境を構築することができた。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 問題なく学生情報の共有が行われているため、2024年度も引き続きこの体制を整えていきたい。
	② 次回の認証評価に向けての準備は進んでいない。前回の認証評価の3つの意見を確認し、対策をおこなっていく。
	③ まだまだSchoo Swingが使い切れていない状態であるため、より積極的に活用していく体制を整える。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 引き続き、学科会議後のFD委員会やベシクセミナー担当者会議などを活用して、学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができる体制を整えていく。
	② 7年後の認証評価に向けて、前回の3つの意見を精査するとともに、学科会議後のFD委員会等で前回の認証評価での改善すべき項目について検討していく。
	③ Schoo SwingなどのITCツールの活用を推進していくため、学科内で積極的に活用している教員が中心となって勉強会を行っていく。

項目	2022年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2023年度の改善目標 (Action)
	① 問題なく学科新聞を送付することができ、また高校訪問も実施できた。
	② 公開講座を企画しても集客ができないことが課題である。2023年度は集客にも力を入れていきたい。
	③ 積極的な学会活動を行っている教員がいる。2023年度も引き続き学会活動や社会貢献に力を入れていきたい。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 引き続き学科新聞の送付など高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールしていく。
	② 2023年度も地域向けの公開講座を実施する。昨年度の反省から集客に力を入れていく。
	③ 学科の知名度を高めるためにも、引き続き学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わる機会を作っていく。

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会貢	1. 取組状況 (Do)
	① 年3回の学科新聞の送付や教員による高校訪問など、高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会をアピールした。
	② 人生100年時代をテーマに地域向けの公開講座を対面で実施した。
	③ 学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わった。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 年3回の学科新聞の送付や重点校への教員による高校訪問など、高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールすることができた。
	② 人生100年時代をテーマに地域向けの公開講座を対面で実施し、終了後アンケートからも満足度の高い公開講座を実施することができた。
	③ 何名かの教員が学会の理事や運営委員を務めることで、目白大学短期大学部の存在を周知することができた。また、学会の支部研究会を複数回実施するなど、目白大学短期大学部の存在を周知することができた。

献	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 学科新聞の送付や重点校への教員による高校訪問など積極的に行っていく。 ② 今までの課題であった集客力のある地域向けの公開講座を実施する。 ③ 引き続き学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わる。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 引き続き学科新聞の送付や重点校への教員による高校訪問など、高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールしていく。 ② 人生100年時代をテーマに地域向けの公開講座を対面で実施する。この活動によって、入学対象者だけでなく、幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールしていく。 ③ 学科の知名度を高めていくためにも、引き続き学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わる機会を作っていく。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1	学科名	歯科衛生学科				
評価対象年度				2023年度(令和5年度)					
入学定員		60名	設置基準上の 必要教員数	専任教員数	10名				
収容定員		180名		教授内数	3名				
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	54名	専任教員数 (5/1現在)	教授	4名	特任内数	0名	博士内数	4名
	2年	64名		准教授	1名	0名	0名		
	3年	69名		専任講師	2名	0名	1名		
	4年	0名		助教	3名	0名	1名		
	計	187名		計	10名	0名	6名		
留学生数 (5/1現在)	1年	0名		他学科等所属専任教員数(5/1現在)	助手	1名	0名	0名	
	2年	0名			非常勤講師数(5/1現在)				
	3年	0名		14名					
	4年	0名		22名					
	計	0名							
休学者数(年度末集計)		5名	授業科目数	春学期	33コマ				
退学・除籍者数(年度末集計)		5名		秋学期	25コマ				
				通年/その他	1コマ				
進路状況 (年度末集計)	就職	58名	開講総コマ数	春学期	41コマ	内非常勤 担当	7.7コマ		
	進学	0名		秋学期	26コマ		3.5コマ		
	その他	6名		通年/その他	14コマ		0コマ		
	計	64名	論文数 (年度末集計) ※刊行日基準	学会誌	3件	内国外	0件		
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		0件		0千円	紀要		1件	0件	
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件		0千円	その他		0件	0件	
					書籍等出版物		0件	0件	
				学会発表件数(年度末集計)	3件	内国外	0件		
社会貢献関連項目		件数	具体例						
産学連携(企業・団体)	1	件	・公益財団法人8020推進財団における調査・研究活動協力						
地域連携(自治体・団体)		件							
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載	6	件	<ul style="list-style-type: none"> ・日本歯科衛生教育学会 常任理事 ・公益社団法人 日本障害者歯科学会 代議員 ・一般社団法人 日本口腔感染症学会 理事 ・日本唾液腺学会 評議員 ・全国歯科衛生士教育協議会関東甲信越地区会 理事・監事 ・全国大学歯科衛生士教育協議会 理事 						
その他社会貢献事業 (高大連携など)	2	件	<ul style="list-style-type: none"> ・目白大学短期大学部公開講座 企画 ・学園祭における来場者への第3学年学生による口腔衛生指導の企画 						

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2023年度(令和5年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	歯科衛生学科		
記入者氏名(役職)	佐藤 昌史(学科長)		

項目	2022年度 自己点検評価
教育 (学生指導含む)	課題と2023年度の改善目標(Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 「事前・事後」学習の時間が短いので、家庭学習に費やす時間を120分以上を目標とする。 ② 登院判定におけるOSCE実施科目の事前公開と、筆記試験の正答率を80%以上とする。 ③ 成績不良者のクラス分けをより早期に行い、1月には模擬試験の正答率、65%以上を目指す。 ④ 「ベーシックコース」の全員終了と、「ステップアップコース」へ取り組む学生を60%以上とする。 ⑤ 引き続き就職・キャリア支援の情報提供を、ゼミ担当教員による就職・キャリア支援個別相談を実施する。
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 「事前学習」への取り組みを促す為に、事前課題を課す。 ② 登院判定における筆記試験の出題を国家試験の過去4年間の問題から出題することとし、事前通告する。 ③ 模擬試験の開始時期を早め、回数も増やして、学生の実力の把握に務める。 ④ 「ベーシックコース」および「ステップアップコース」へ取り組みを必須とする。 ⑤ 引き続き就職・キャリア支援の情報提供を、ゼミ担当教員による就職・キャリア支援個別相談を実施する。

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
教育 (学生指導含む)	1. 取組状況(Do)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 事前・事後学習を促すため、主要科目においては予習課題または復習課題を課した。 ② 臨地・臨床実習前の臨床技能試験(2課題)および学力知識試験を予定通り実施し、合格率は技能試験課題1は71%、課題2は80%、筆記試験98%であった。不合格者・欠席者には追再試を行い全員が登院基準を満たし合格した。 ③ 模擬試験の開始時期を早め、回数を増やし春学期に2回、秋学期以降5回おこなった。また、成績不振者に対しては重点講義を教員および学外講師により実施した。1月の模擬試験の平均正答率は50%であったが、2月時点で平均正答率64%となった。 ④ 授業、担任面談等を通じてベーシックコース、ステップアップコースへの取り組みを促すよう努めた。 ⑤ 3年生へのキャリア支援の情報提供は医院説明会やキャリア就職支援用googleclassroom等で十分行えたが、年内中に内定の報告は20%弱と少なかった。2年生へはキャリアデザインの授業を通じた早期の目標設定や就職への情報提供を行った。
	2. 点検・評価(Check)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 国家試験を控えた3年生においては平均学習時間が2時間以上の者が40.4%であったが、2年生においては約90%の学生が1時間以内であった。また学習意欲が低い学生では、課題の提出がなされない者や指定期限に遅れる傾向がみられた。 ② 登院判定における臨床技能試験においては70~80%の合格率であり難易度として適当と考えられるが、過去の4年分の国家試験問題を使用した筆記試験では98%と高かった。実技試験および筆記試験において再試験を行った。 ③ 早期の動機付にある程度効果があったと思われたが、春学期は臨地・臨床実習期間中のため基礎知識が整理されていない学生が多く、秋からの総合講義や重点補講による学生全体の学力の底上げに十分な効果が出なかった。 ④ ベーシックコースは修了者は100%であったが、ステップアップコースへ1科目以上終了した者が26%にとどまり取り組みは十分ではなかった。 ⑤ 求職者の就職率は100%であったが、未報告も含め、年内の内定率が低く、一部学生では国家試験受験後に就職活動をするものも見られた。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 欠席が多く授業についていけない学生への対策、課題提出に対する対策を図る必要がある。 ② 臨床技能試験(OSCE)の課題は出題担当者で検討し、筆記試験においては事前に出題問題(国試の4年分過去問からの出題)を通知し、その中から50題出題しており次年度についても問題数や方法について検討する。 ③ 秋学期以降の本格的な国家試験準備を効果的に行うため、春学期から実習帰校日を利用した専任教員による基礎知識の定着や成績不振者への学習方法の指導を検討していく。 ④ ベーシックセミナーを通じて担任より、メジプロへの取り組みの進捗状況について頻りにチェックをおこない取り組みへの指導を強化し、前年度以上にステップアップ修了者が増えるように努める。 ⑤ 国家試験に対する準備が不十分な学生は就職活動に対する意欲も低いと思われる、主にゼミを通じて早期から意識付けを図っていく。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 欠席が多い学生への面談、保護者への通知などを担任・ゼミ担当で行う。学科全体で授業態度、ルールの遵守に対する指導を普段から徹底する。 ② 教員人数の減少により、同様の方法で実技試験および筆記試験が行えるか、担当者を中心に計画をたて検討する。可能な限り同規模での実施を予定。 ③ 春学期の登校日空コマを利用した専任教員による学習方法のセミナーや主要教科の基礎知識の確認講座を開催し10月までに基礎学力の向上を図る。1月までの模試で合格基準を超える学生を70%台に引き上げ、最終的に新卒の国家試験合格率90%を目指す。 ④ 引き続きベーシックコースは全員修了、ステップアップコースの1科目以上の修了は60%以上を目指す。 ⑤ 夏季休暇期間を利用した積極的な医院見学を促し、国家試験の本格的な準備時期に差し障らないよう年内の内定率50%を目指す。

項目	2022年度 自己点検評価
研究	課題と2023年度の改善目標(Action)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 紀要への投稿を義務化する、一方、学会発表も推奨する。 ② 研究発表会での全員発表を目指す。
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	<ul style="list-style-type: none"> ① 学会での発表を隔年ごとに行えることも目標とし、研究施設・器材の充実を図る。 ② 科研費への応募を義務付けする。

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況 (Do)
	① 短期大学紀要1編、他の学会誌3篇の投稿をおこなった。学会発表は各専門学会において計3題おこなった。 ② 短大におけるFD研修会での研究発表は 3人がおこなった。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 全体としては紀要への投稿は減少したが専門学会への投稿や学会発表は増えた。また科研費への応募はなかった。 ② 短大FD研修会での発表は予定通り行われた。
3. 課題と次年度の改善目標 (Action)	
① 臨床分野での資料収集や実験は現況では難しいが各教員が専門とする分野で、実現可能なテーマ設定や研究デザインを見出す。 ② FD研修発表会での発表の機会から将来、紀要への投稿、また専門学会での発表へ繋げていく。	
4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)	
① 学科全体で取り組めるテーマの模索および各教員が関わりのある施設や他大学との共同研究を積極的にすすめる。 ② 若手教員を中心に研修会での発表の機会を継続していく。	

項目	2022年度 自己点検評価
管理運営	課題と2023年度の改善目標 (Action)
	① 「自己点検評価」「教育研究業績書」を踏まえて、新たな研究科目への挑戦を意識付ける。 ② 新任教員が入ったので、職務の分担の効率化を図る。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
① 地域社会における一般向け講演会を企画して、発表の場を設ける。 ② 職務分担をチーム化し、効率効果を上げる。 ③ 短期大学のHPやTwitterやInstagramなどのSNSのさらなる活用および学科新聞の発行等により、広報活動を強化するほか、高校への出張講義なども積極的に行う。	

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況 (Do)
	① 研究業績としては今年度は紀要1編、その他専門学会投稿論文3編、学会発表3演題であった。 ② 新任教員の加入により業務の分担を図れたが、第2学年、第3学年の学生数が昨年度までより増え、学外実習施設の拡充や新規実習の計画などにより学生指導業務も以前より増加した。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 十分ではないものの、論文・紀要・学会発表など成果は上がったと思われる。 ② 以前の教員不足の状況から徐々に新任教員の加入により業務分担が行われたが、新型コロナウイルス感染拡大時の体制から、平時の体制に戻り、学外実習施設の拡充、などにより、巡回業務や実習先との調整業務なども増え、実務関係では教員の負担が増えてしまった。
3. 課題と次年度の改善目標 (Action)	
① 引き続き学内の紀要への投稿を促すとともに、専門学会における発表、科研費応募へのチャレンジを目標とする。 ② 3名の専任教員および助手の退職に対し、専任教員1名、助手1名の新加入に留まっており、2024年度の業務に支障や負担が偏らないように、学科内の意思疎通をこれまで以上に図る必要がある。引続き、欠員の補充に努める。	
4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)	
① 特に若手教員が専任教員講習会など教育業績や今後のキャリアアップにつながる活動に参加できるよう協力して業務の分担を図るよう努める。 ② 学科会議で学生情報、各委員会等の情報を効率よく共有するとともに、他学科とも交流を図り、協力体制をとっていく。 ③ 教育業務、学科運営、研究活動において未補充の専任教員の確保が急務であり、適切な人材の採用に向け各方面に積極的に働きかけていく。	

項目	2022年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2023年度の改善目標 (Action)
	① 地域社会へのアピールをSNS等活発にし、地域社会・住民にとって有意義な内容の公開講座を開催する。
改善に向けての具体的な計画 (Plan)	
① 2023年度は公開講座を学園祭時に開き、また学生による口腔清掃法などの講習会を開催する。	

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会貢献	1. 取組状況 (Do)
	① 専任教員による歯科疾患の予防に関する内容の公開講座を開催し、また学園祭においては地域歯科保健実習として来場者への3学年学生による口腔衛生指導を計画し実施した。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 学園祭時には地域保健実習の一コマとして学生による口腔衛生指導を実施したため、別の時期に公開講座を行ったが5名の参加であった。
3. 課題と次年度の改善目標 (Action)	
① 引き続き、参加が期待できる高齢者などをターゲットとした関心を引きそうなテーマで公開講座を開催し、集客に努めていく。	
4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)	
① 次年度も地域の参加者を対象にした口腔保健や歯科疾患の予防に関する公開講座を予定し、参加者増加に向けた効果的な集客活動に努める。学園祭時のイベントとして2024年度は実習を組み入れることが困難な場合は、歯科保健の啓蒙につながるイベントを検討する。	

卒業における学修成果確認試験

専門科目アセスメント・ポリシーにおける
学位プログラムレベルの点検・評価
(卒業認定・学位授与等の方針に関する規程第7条関連)

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート5	評価対象年度	2023年度(令和5年度)
カテゴリー	教育課程		
アセスメント	卒業における学修成果確認試験		
学部・学科	短期大学部製菓学科、ビジネス社会学科、歯科衛生学科		

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
製菓学科	1. 確認基準 「和菓子」「洋菓子」「製パン」(製菓衛生師、実践コースに共通する座学)「食品衛生学」「栄養学」各分野における基本的な知識を測る、DPIに沿った問題を各分野10問(合計50問)出題する。 テスト形式(対面実施)で確認する。
	2. 実施日 2023年2月2日11時00分より12時00分(1時間)
	各分野60%以上の正答率を合格基準とする。 合格に達していない学生には2月22日に再試験を実施した。
	4. 結果 対象学生56名中、合格者56名。(2023年度卒業生56名)
	5. 達成度(S・A・B・C・D評価) S:100%、A:80%以上、B:50%以上、C:50%未満、D:実施できず S評価(製菓衛生師:S評価、合格者33名、合格率100%)
ビジネス社会学科	1. 確認基準 学生が選択している各フィールド(秘書・ファイナンシャル、メディカル秘書、ファッション・カフェビジネス、観光・ホテル・ブライダルビジネスの4フィールド)について、それぞれのフィールドに設定されたテーマに沿って指定されたキーワードを使用しつつ文章を作成する。 ビジネス社会学科共通のGoogle Classroomのクラスを設定し、配布と提出を行う。
	2. 実施日 配布時期:2024年1月9日~1月18日 提出期限:1月18日17:00まで
	3. 評価方法 各課題のキーワードのうち6単語以上を使用し作成する。 合格に達していない学生に対しては、再テストを実施する。
	4. 結果 対象学生74名中、合格者72名。期限後に提出した2名は、審査後に合格。(2023年度卒業生74名)
	5. 達成度(S・A・B・C・D評価) S:100%、A:80%以上、B:50%以上、C:50%未満、D:実施できず S評価
歯科衛生学科	1. 確認基準 国家試験に対する準備状況を明確にすることで、卒業までの学びを総括するため、歯科衛生士国家試験過去問題(第23回~第30回)を基本として一部改変して問題とし、これに試験に充てる。
	2. 実施日 ①2023年12月11日 正答率60%以上を合格とした。 ②追再試験(2023年12月18・19日) 正答率60%以上を合格とした。 ③追再試験(2023年12月25日) 正答率60%以上で合格とした。
	3. 評価方法 ①合格基準を正答率60%以上とした。①、②の不合格者には、特別クラスを編成し、集中補講を行い、合格基準以上になるまで指導した。
	4. 結果 ①合格者38名、②合格者22名、③合格者4名、合計64名合格した。(2023年度卒業生64名)
	5. 達成度(S・A・B・C・D評価) S:100%、A:80%以上、B:50%以上、C:50%未満、D:実施できず A評価(国家試験合格者53名、合格率82.8%)

各種委員会

内部質保証委員会

F D 実施委員会

教務委員会

学生委員会

就職・キャリア委員会

入試広報委員会

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	内部質保証		
担当委員会・センター(構成員数)	内部質保証委員会(52名)		
担当部署	大学企画室		
記載責任者(役職)	太原孝英(委員長・大学学長)、山田隆文(副委員長・短期大学部学長)、池村えみ(内部質保証担当)		
会議概要(実績回数)	本委員会3回、大学・大学院部会2回、短期大学部部会1回、大学外部評価委員会1回、短大外部評価委員会1回		
添付エビデンス	目白大学・目白短期大学部における内部質保証に関する規程(2023年3月1日改正施行)、内部質保証委員会会議資料・事概要、短大外部評価委員会報告書録・高大連携に向けた懇談会実施報告・企業との懇談会実施報告、大学外部評価委員会報告書、大学学生評価委員会報告書・各学科専門科目アセスメントポリシー 第5次中期目標・中期計画 https://www.mejiro.ac.jp/gakuen/pdf/mt_plan_2024-2028.pdf		

項目	2022年度 自己点検評価
事業内容	<p>課題と2023年度の改善目標(Action)</p> <p>①「部門別自己点検評価年次報告書」に具体的な数値や達成目標を掲載できるようなフォームを検討する。</p> <p>②短大:内部質保証、FDSD活動について、規程を改正し体制を整備し、短期大学部の取り組みとしてHPに公開する。</p> <p>③大学:外部評価委員会での評価が不明確であるため、明確にするの施策を検討する。学生評価委員会の学生選抜と開催を滞りなく行う。</p> <p>④大学:認証評価受審に向けて、評価書執筆、各種エビデンスの収集を滞りなく行う。</p> <p>⑤大学:IRの各種アセスメント結果について、各学科FDや委員会等の活動において有効利用を促進する。</p> <p>⑥大学:専門科目アセスメントポリシーに基づく評価結果を内部質保証委員会大学部会で検討・評価する。</p> <p>⑦大学:APの再点検を入学前教育の充実を図る。</p> <p>⑧短大:学修成果確認試験の評価基準を明確にするための対策を行う。</p>
	<p>改善に向けての具体的な計画(Plan)</p> <p>①「部門別自己点検年次評価報告書」に達成目標を記載するフォーム改善を行う。</p> <p>②短大:内部質保証、FDSD活動のHP公開にあたり、短大独自の活動を掲載する。</p> <p>③大学:外部評価委員会の事後アンケートによる評価を充実させ、現状の評価を可視化し、多様な意見を学内で共有できる体制を整備する。また、学生評価委員の選抜等を春学期中に行い、意見聴取をスムーズに行い、会議がより有意義なものなるよう事前に調整する。</p> <p>④大学:認証評価受審に向けて、6月内部質保証委員会で評価書の承認を受けて完成し、その後の評価機構からの疑義の対応を行い、10月の実地調査に向けて、大学が一丸となり、万全の体制で臨む。</p> <p>⑤大学:IRの各種アセスメント分析について、学科別に結果を示すことで、各学科や担当者の関心を高め、分析に役立てる。そのうえで、達成目標を検討する。</p> <p>⑥大学:専門科目アセスメントポリシーに基づく評価結果を内部質保証委員会大学部会で検討・評価する。</p> <p>⑦大学:内部質保証委員会大学部会での検討から、APの課題、入学前教育の課題を明確にする。</p> <p>⑧短大:学修成果確認試験の評価基準にルーブリックを活用する。</p>

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>①【部門別自己点検年次評価報告書】に達成目標や具体的な数値を記載するフォーム改善は行えなかった。</p> <p>②【短大:内部質保証】短大の取組として短大HPに、内部質保証活動とFDSD活動を公表した。</p> <p>③【大学:外部・学生評価委員会】外部評価委員会は、第二期となり、構成員を改編した。10月には全構成員が確定し、テーマはアドミッション・ポリシー(入試、入学前教育、入学後の状況)として2月16日に委員会を実施した。学生評価委員は学科等に協力いただき、年末までに委員が確定し、さいたま岩槻キャンパスは1月25日、新宿キャンパスは2月2日に委員会を実施した。</p> <p>④【大学:認証評価受審】複数回のワーキングと各部門でのデータ収集と報告書作成を経て、6月内部質保証委員会で評価書の承認を受けて公益財団法人日本高等教育基準機構へ提出し、実地調査を迎えた。</p> <p>⑤【大学:IRの各種アセスメント分析】アセスメント結果を学科別に示した。ことで、各学科や担当者の関心を高めることができた。</p> <p>⑥【大学:専門科目アセスメントポリシーに基づく評価結果】専門科目アセスメント・ポリシーの結果を検討・評価できなかった。</p> <p>⑦【大学:AP、入学前教育】外部評価委員会ではテーマとして取り上げ、外部有識者の評価・意見をいただいた。また、学生評価委員会では「入学前教育」を取り上げ、学生視点での課題を抽出した。</p> <p>⑧【短大:学修成果確認試験】ビジネス社会学科の学修成果確認試験の採点・評価にルーブリックを活用した。</p>
	<p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>①【部門別自己点検年次評価報告書】2023年度は目標を記載するようなフォームに改訂できなかったが、2024年度は認証評価受審を受け、2023年度の年次報告書では、データ記載シートには基準教員数(大学設置基準で定められた基準数)を記載することとした。</p> <p>②【短大:内部質保証】公表したFDSD活動は、研究交流会、研究発表会、学科FD活動、教員相互の授業参観について公表した。</p> <p>③【大学:外部・学生評価委員会】外部評価委員会は、「事後アンケート」を「事後評価」に4段階評価に変更、自由記述を評価できる点、改善を要する点として分けることで、評価と改善すべき点を明確にした。第1回学生評価委員会は、学生により建設的な意見が発信された。また事後アンケートでも前向きな感想をいただき、引き続き、活動を継続し活発なものになるよう工夫する。</p> <p>④【大学:認証評価受審】6月内部質保証委員会で評価書の承認を受け、機構へ提出し、10月の実地調査を迎えた。学長及びLOのリーダーシップのもとで大学教職員が一丸となり、万全の体制で臨み、優れた点として4項目が挙げられ、改善を要する点は3項目であった。結果は「適合」であり、改善を要する点のうち、教授の基準数は年度内に改善したが、引き続き第5次中期目標・中期計画に項目を加え、改善を図る。</p>

- ⑤【大学:IRの各種アセスメント分析】アセスメント結果を学科別に示したことで、各学科や担当者の関心を高めることができたが、「達成目標」は検討できなかった。
- ⑥【大学:専門科目アセスメントポリシーに基づく評価結果】大学執行部で各学科の状況、課題を共有した。次年度は新3方針の策定に合わせて、アセスメントポリシーの改訂も行う。
- ⑦【大学:AP、入学前教育】外部評価委員会では、APの受験性への浸透、学力入試で入学した学生への入学前教育の改善が必要であると指摘を受けた。学生評価委員会では、入学直後にすでに関係性が出来ている年内入試に比べ学力入試で入学した学生への支援の充実が意見された。
- ⑧【短大:学修成果確認試験】ビジネス社会学科の学修成果確認試験の採点・評価にルーブリックを活用し、74名(2023年度卒業生)が合格した。

3. 課題と次年度の改善目標(Action)

- ①【部門別自己点検年次評価報告書】報告書の実質化を図るために、2025年度に向けて、第5次中期目標・中期計画を反映させる項目の追加と目的を記載するなどの改善を検討する。
- ②【短大:外部評価委員会】第5次中期目標・中期計画に基づき、外部評価(外部有識者、高校、就職先)を行い、教育活動の点検、妥当性の確認、改善による質の向上を目指す。
- ③【大学:外部・学生評価委員会】外部評価委員会及び学生評価委員からの評価と改善すべき事項を明確にし、学内周知を図り、教育の質の向上を推進する。
- ④【大学:IRの各種アセスメント分析】効果的なIR活動、IRの高度化を行うために、第5次中期目標・中期計画に則り、各種アセスメントの見直しを行う。
- ⑤【大学:新3方針の策定】外部評価委員会での評価を受けAPの改善に取り掛かると同時に、第5次中期目標・中期計画に則り、DPも含め、新3方針の策定に取り掛かる。
- ⑥【短大:新3方針の策定】第5次中期目標・中期計画に則り、新3方針の検討、コンピテンシー教育の基本方針を策定する。
- ⑦【第5次中期目標・中期計画】目標・計画に則り、教育・研究活動の向上を図る。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ①【部門別自己点検年次評価報告書】2025年度では、各項目が自己評価できるように改善することと、目的を明確にするフォームへ秋学期はじめ頃までにフォームを確定する。
- ②【短大:外部評価委員会】高校とは授業見学会の開催を行うなど新しい試みを行い、高大連携を強化する。
- ③【大学:外部・学生評価委員会】外部評価委員会の指摘事項を抽出し、各部門(委員会等)へ周知した後、各部門での改善進捗を確認する制度を構築する。学生評価委員会からの改善提案は教務ポータルなどで状況報告し、説明責任を果たす。
- ④【大学:IRの各種アセスメント分析】基礎力はGPS-Academicと全学科1年のベーシックセミナー内で行う。また、国語アセスメントアもベーシックセミナー内で行う。授業内で行うにあたり、各アセスメントを単なる分析活用だけでなく、各学生の教育効果と学修成果の可視化に役立てる。年度内に新国語アセスメント方針を策定し、2025年度の準備を整える。
- ⑤【大学:新3方針の策定】第5次中期目標・中期計画に則り、新3方針の秋学期初頭には各学科・各部門へ発表できるように検討する。
- ⑥【短大:新3方針の策定】第5次中期目標・中期計画に則り、各学科のビジョン、学修成果の明確化を行う。また、新3方針の策定、コンピテンシー教育の基本方針の検討を開始する。
- ⑦【第5次中期目標・中期計画】2024年度の計画を遂行し、進捗を管理する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	FD活動(新宿キャンパス)、全学FD研修会		
担当委員会・センター(構成員数)	FD実施委員会		
担当部署	教務部研究支援課、高等教育教育研究所		
記載責任者(役職)	今野裕之 大学新宿キャンパスFD実施委員長/高等教育研究所所長、 小松由美 短期大学部FD実施委員長		
会議概要(実績回数)	キャンパス合同FD実施委員会(1回)		
添付エビデンス	「目白大学新宿キャンパス各種委員会規程」、「目白大学短期大学部各種委員会規程」、「目白大学・目白大学短期大学部FD・SD推進委員会規程」 2023年度第1・2回FSDS推進委員会資料、2023年度 第1回全学FD研修会実施概要、2023年度 第1回全学FD研修会報告、2023年度 第2回全学FD研修会実施概要、2023年度 第2回全学FD研修会報告、2023年度 FD実施委員会(キャンパス合同)議事概要、目白大学・目白大学短期大学部 FD活動の目標、2023年度「FD活動実施計画書」一覧、2023年度「FD活動実施報告書」一覧		

項目	2022年度 自己点検評価
事業内容	課題と2023年度の改善目標(Action) ① 全学FD研修において、高い参加率を保ちつつ、教育力の向上・研究活動の活性化のため、研修内容を充実させる。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 「目白大学・目白大学短期大学部FD・SD推進委員会規程」に基づき、組織的にFD及びSDを実施する。

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	1. 取組状況(Do) ①【全学FD研修】第1回全学FD研修を2023年9月8日～9月15日にGoogleClassroomでの資料掲出・オンデマンド動画方式で行った。 実施内容 1)コンプライアンス教育(SD)/研究倫理教育 2)研究成果発表 3)授業と評価に関する研修(授業評価アンケートの結果より)とした。なお、実施後はGoogle Formより、コンプライアンス教育/研究倫理教育の理解度チェックを含めたアンケートを実施した。 ②【全学FD研修】第2回全学FD研修を「学修成果の可視化」をテーマに、2024年2月9日に対面で講演会(後日オンデマンド配信)と2月7日から3月11日まで事例動画の視聴で行った。 実施内容 1)講演会:「学修者本位の大学教育へ:学修成果を可視化できる教育と学修支援」成田 秀夫氏(桐蔭横浜大学 学長特別補佐) 2)「学修成果の可視化の目的」 3)「事例報告」 なお、実施後はGoogle Formよりアンケートを回収した。 ③【部門別FD研修】2023年度の部門別FD研修にあたり、中退防止をテーマに取り上げるように依頼した。全学部・学科・研究科より計画書が提出された。 ④【FSDS推進委員会】授業評価アンケートの実施あたり、短期大学部のアンケート内容の改訂を行った。授業評価アンケートの回答率は昨年度より下がった。 ⑤【新任者SD】新任者研修をSDとして位置づけ、2024年3月29日に人事課主催の新任者研修の午後の部で40分程度行った。 ⑥【学生相談室FD】新宿キャンパスにて中退防止の一環として学生相談室に関するFD研修を教授会終了後(5月から10月まで)に各学部、短期大学部で順次行った。
	2. 点検・評価(Check) ①【全学FD研修】第1回全学FD研修 研究成果発表は9名の教員による発表が行われた。教員参加率は100%(301名)であった。 1)コンプライアンス教育(SD)/研究倫理教育の満足度(とても満足+満足)は96%、理解度は(理解できた)99.3~99.7%と高かった。 2)研究成果発表の満足度(とても満足+満足)は92.3%と高かった。 3)授業と評価に関する研修(授業評価アンケートの結果より)の満足度(とても満足+満足)は89.3%であった。 ②【全学FD研修】第2回全学FD研修 教員の受講者は286名(95.2%)であり、100%参加率の学科が8学科であった。 「事例発表は」新宿CPは藤巻先生、井口先生、さいたま岩槻CPは野村先生、短期大学部は上岡先生に発表いただいた。 講演会の満足度(とても満足、満足)は90.6%、オンデマンド部分の満足度(とても満足、満足)は92.6%と高かった。 ③【部門別FD研修】各部門で計画通りFD研修を行った。なお、中退防止を扱った学科は8学科であった。 ④【FSDS推進委員会】授業評価アンケート実施にあたり、短期大学部のアンケート内容の改訂を行った。授業評価アンケートの回答率は昨年度より下がった。 ⑤【新任者SD】新宿キャンパスにて35名の新任教員が参加して行われた。内容は研究業績プロ、研究支援に関する説明であった。 ⑥【学生相談室FD】学生相談室の利用状況や相談内容について理解を深め、学生支援につなげた。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action) ①【全学FD研修】高い参加率を保ちつつ、教育力の向上・研究活動の活性化のため、全学FD研修内容を充実させる。 ②【部門別FD研修】引き続き、各学部学科の特色を生かした教育・研究の質の向上を図るため、部門別FD活動を推進する。 ③【新任者SD】新任者が本学の理解を向上させスムーズな業務遂行を行うため、新任者SDの充実を図る。 ④【FSDS推進委員会】教育活動の活性化のため、TA/SAのFDを検討する。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ①【全学FD研修】全学FD研修を引き続き開催する。なお、第2回全学FD研修のテーマは「AI・データサイエンス教育」とした。
- ②【部門別FD研修】部門別FD研修では2024年度FD研修にあたり「授業のねらいの明確化」や「ルーブリック評価」等の学修成果をテーマに取り上げるよう依頼した。
- ③【新任者SD】年度末の多忙な時期ではあるが、新任者SD研修の内容を更に充実させるため、両キャンパスの教務課の協力を得る。
- ④【FDSD推進委員会】新しいFDとして、TA/SAのFDを動画で行えないか、高等教育研究所で検討を開始する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	教務支援		
担当委員会・センター(構成員数)	教務委員会(大学:26名、短大:3名)		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス教務部教務課		
記載責任者(役職)	雪吹 誠(学務部長(教務担当))、堀 崇一郎(教務部長)		
会議概要(実績回数)	11回		
添付エビデンス	①「遠隔授業について」→2023年度総合科目授業形態、休講時の補講について ②「SchooSwingについて」→SchooSwing説明会について、種別ごとのコンテンツ数 ③「共通科目について」→学年暦(新宿キャンパス) ④「臨地研修について」→「臨地研修」に関する申し合わせ(2023年度改訂案) ⑤「シラバスについて」→2024年度シラバス執筆依頼、2024年度シラバス点検のポイント(セルフチェックのお願い)、2024シラバス点検依頼、2024年度シラバスルーブリック評価使用状況 ⑥「出欠アラートについて」→アラートシステム運用について		

項目	2022年度 自己点検評価
事業内容	課題と2022年度の改善目標(Action) ① 遠隔授業について、 ・新入生に対してオンデマンド型の周知が徹底されておらず、大学内にて受講すると考えていた学生が多く混乱が生じた。 ・総合科目はオンデマンド型の授業が定着してきた。その他にも例えば学部共通科目などの講義科目において、オンデマンド型の授業でも教育効果が得られる科目は、新LMS(SchooSwing)を活用した授業実施形態の検討を各学科に依頼していく。 ② BYODについて、2023年度よりBYODの実施が始まり、BYODに対応可能な新LMSとしてSchooSwingを導入する。2023年度はGoogleclassroomと併用しながらの運用とはなるが、徐々にSchooSwingの知見を蓄積していき、情報を共有化を目指す。 ③ 共通科目について、2023年度以降、共通科目内の総合科目は学年のバラツキをなくすよう検討した方法(該当学年と該当学年以外の学年を分け事前抽選をする)を実践し、より最適な仕組みへと改善していく。 ④ 臨地研修について、教務委員会での報告一覧では、学生個々の活動内容・活動時間を確認することができない。単位数相当の時間数を確保しているか確認できる仕組みを検討する。 ⑤ シラバスについて、2024年度より全科目についてルーブリック評価の導入を予定しているが、教員にルーブリック評価自体の理解不足や浸透していない状況である。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 遠隔授業について ・新LMS(SchooSwing)を活用し、共通科目での遠隔授業(オンデマンド型)を積極的に展開していく。 ② SchooSwingを利用した授業(対面・遠隔・ハイフレックス)のモデルを公開し、教員の利用実績を高めていく。2024年度はSchooSwingを全ての授業で使用し、BYOD化に対応する。 ③ 2024年度より岩槻キャンパスとの共通開講を実施するため、学年暦の違いに関連する問題や事前抽選の在り方について2023年度中に検討する。 ④ 臨地研修について、2023年度の報告より、教務委員会に報告一覧を提出する前に学生個別の報告書を教務委員に共有する。教務委員は報告書を確認し、疑義がなければ教務委員会に提出することにし、また、質の確保が担保できるよう仕組みをより良い形に改善していく。 ⑤ シラバスについて、ルーブリック評価を必須化するため、2023年度内に教員へのFDやルーブリック評価作成マニュアルなどを検討する。

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況(Do)	① 遠隔授業について ・2022年度より原則対面授業となったが、共通科目内の総合科目区分の授業については、2023年度も引き続きオンデマンド型の授業を積極的に導入した。 ・遠隔授業(オンデマンド型)はSchooSwingを原則使用した。 ・休講時の補講について、課題提出のみの補講を廃止し、SchooSwingを使用しているオンデマンド型を認めた。 ・新宿CP・さいたま岩槻CPとの合同授業(分野横断科目)に関して、2024年度より導入に向けて準備を進めた。 ② SchooSwingについて ・基本操作の確認とオンデマンド型授業の作成を目的として、2023年8月25日(金)にZoomにて研修会を実施した。 ③ 新宿・岩槻の共通開講について ・課題が多く実現には時間が必要。新宿CP・さいたま岩槻CPとの合同授業(分野横断科目)の開講にあたっては、課題提出日に行事等が重ならないよう設定した。 ④ 臨地研修について ・学生個人の研修報告書を教務委員会2週間前までに提出し、全教務委員に共有することとした。 ⑤ シラバスについて ・2024年度より学修評価を明確化するため、ルーブリックを使用しシラバスを作成した。但し、ルーブリックでの評価が困難な場合においては評価の観点を3項目以上を必ず記入することとした。
2. 点検・評価(Check)	① 遠隔授業について ・共通科目の総合科目で、47科目中41科目を遠隔授業(オンデマンド型)で実施した。 ・SchooSwingを使用することにより、学生の視聴履歴を管理することができた。 ・補講をオンデマンド型を認めることにより、授業時間を確保することができた

- ② SchooSwingについて
・2023年度秋学期時点において、2023年度春学期よりも、オンデマンド型のコンテンツ数が320から1382へと大幅に利用が増えた。
- ③ 新宿・岩槻の共通開講について
・新宿CP・さいたま岩槻CPとの合同授業導入(分野横断科目)に関して、キャンパスごとに履修者数に制限を設け、より多くの学生が受講できるよう工夫をした。
- ④ 臨地研修について
・研修時間について詳細に報告を義務化し、研修時間確保に努めることができた。
・2024年度以降オンラインのみでの臨地研修は承認しない。※オンラインを利用しての情報収集は継続。
- ⑤ シラバスについて
・2024年度シラバスはルーブリックを用いての作成が、大学63.2%、短期大学部76.31%となった。
・全てのシラバスについて、評価の観点が3項目以上となった。

3. 課題と次年度の改善目標(Action)

- ① 遠隔授業について
・共通科目内の総合科目については、遠隔授業(オンデマンド型)が定着してきた。さらに専門教育科目も導入に向けて検討を進めていく。
- ② SchooSwingについて
・オンデマンド型授業での利用は増えてきたが、BYODに対応した対面授業での利用が進んでいない。
- ③ アラートシステムについて
・2022年度秋学期より退学防止の観点より導入したが、全科目が対象となっていたためアラートの回数が多くなりすぎてしまい、教員・学生共に対応に追われるケースが散見された。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ① 遠隔授業について
・専門教育科目については、オンデマンド型でも十分教育効果が得られる科目の授業実施方法を検討していく。
・対面授業とオンデマンド型を組み合わせた授業やクォーターで完結する授業での教育効果を検証していく。
- ② SchooSwingについて
・システムを利用した授業(対面・遠隔・ハイフレックス)のモデルを公開し、教員の利用実績を高めていく。2024年度はSchooSwingを全ての授業で使用し、BYOD化に対応する。
- ③ アラートシステムについて
・アラート対象科目の見直しを行い、1・2年次の必修科目とする。
・アラート算出の期間や条件の見直しを行う。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価単位名称)	委員会・センター
カテゴリー	学生支援(厚生補導)		
担当委員会・センター(構成員数)	学生委員会(18名) ※事務局職員を除く		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス学生部学生課		
記載責任者(役職)	長崎俊秀(学務部長学生担当)、高橋寛(学生部長)		
会議概要(実績回数)	10回		
添付エビデンス	学部長等会議議事概要、学生委員会議事概要、大学Webサイト、特定支援団体運営委員会資料、桐光会総会及び奨学委員会資料、学生相談室連絡会議資料		

項目	2022年度 自己点検評価
事業内容	<p>課題と2023年度の改善目標(Action)</p> <p>①【なんでも相談窓口】学科によってハイリスク学生の共有フォルダの活用の度合いに濃淡があった。</p> <p>②【特定支援団体(チャリーディング部)】競技レベル向上のためにも、今年度以上の入部者確保を目指す。</p> <p>③【学生相談室】より多くの学生にメンタルヘルス予防としてのセルフケアの周知・学生同士の交流の機会を提供する必要がある。</p> <p>④【新入生データ関係業務】WEBでの作業を完結出来ていない学生のための対応スケジュールを準備しておく必要がある。</p> <p>⑤【桐光会奨学金】多子世帯の定義について、2024年度からの修学支援新制度の拡充(多子世帯への支援強化他)の動きとの整合性を図る必要がある。</p> <p>⑥【桐和祭】今年度より飲食を含む通常開催に戻す予定であるが、実行委員会の運営能力を如何に向上させるが成功の大きな鍵となる。</p>
	<p>改善に向けての具体的な計画(Plan)</p> <p>①【なんでも相談窓口】学科長及び学生委員に対し、共有フォルダの活用を呼び掛けるとともに、アクセス方法等について丁寧に周知する。</p> <p>②【特定支援団体(チャリーディング部)】従来の取組に加え、学内の合同クラブ説明会、オープンキャンパスにも積極的に参加し、受験生への浸透をはかる。</p> <p>③【学生相談室】学生の成長・支援に役立つようなワークショップ、グループ活動の実施、交流が図れるような居場所づくりをすすめる。</p> <p>④【新入生データ関係業務】不備がある学生の場合のスケジュール・対応を事前に別途用意しておき、新年度の作業負担・混乱を軽減させる。</p> <p>⑤【桐光会奨学金】多子世帯の定義について、修学支援新制度上の基準を準用する。</p> <p>⑥【桐和祭】実行委員会と学生課との協働をより強化し、4年ぶりの完全開催を成功に導く。</p>

項目	2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>①【なんでも相談窓口】ハイリスク学生の共有フォルダへのアクセス方法に関するマニュアルを新たに作成し活用を促した。</p> <p>②【特定支援団体チャリーディング部】チャ推薦入学者以外への声掛けを強化するとともに、部員確保のためチャ推薦基準の緩和(2025年度～)を行った。</p> <p>③【学生相談室】全学生にむけて、学生相談室主催のワークショップ「剛柔流空手・形(カタ)から学ぶ護身術講座」を開催した。</p> <p>④【新入生データ関係業務】Webページの内容を整理し簡潔且つ明瞭なものとした。あわせて手続きに不備がある学生への対応手順を定め、業務負担軽減と円滑化を図った。</p> <p>⑤【桐光会奨学金】多子世帯の定義について修学支援新制度の基準(被扶養者となっている兄弟姉妹3人以上)を準用した。</p> <p>⑥【桐和祭】準備作業に若干の出遅れはあったものの、実行委員会組織の再構築及び学生課との連携が功を奏し、4年ぶりの完全開催にこぎつけた。</p>
	<p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>①【なんでも相談窓口】一部の学科の取組みに一定の前進があった。</p> <p>②【特定支援団体チャリーディング部】一般の入学者(経験者等)への個別の声掛け等により、2024年度はチャ推薦1名以外に4名の入部があった。(前年度チャ推薦1名、チャ推薦以外3名)</p> <p>③【学生相談室】11名が参加し、自分の身を守る護身術を学ぶとともに自分の体に意識を向け落ち着きや集中力を養う体験をし、セルフケアを高めた。</p> <p>④【新入生データ関係業務】問合せ件数の大幅減(Web方式導入前の2019年度比3割減、106件→75件)と、全新生入生について授業開始前の手続完了を実現した。</p> <p>⑤【桐光会奨学金】多子世帯として申請のあった6件の審議が円滑に行われた。</p> <p>⑥【桐和祭】飲食関係の出店に一定の制限を設けたものの、ほぼコロナ前の規模での開催となり6,178名の来場者があった。(昨年度6,069名)</p>
	<p>3. 課題と次年度の改善目標(Action)</p> <p>①【新】課外活動の活性化】学生会による「課外活動の活性化のための補助事業」を実現する。</p> <p>②【特定支援団体チャリーディング部】2025年度入学者については、2024年度卒業予定者数6名を上回る新入部員の確保を目指す。</p> <p>③【学生相談室】学生への周知活動、教職員との連携を今まで以上に強化し、大学全体としての学生支援体制を充実させる。</p> <p>④【新入生データ関係業務】引続き業務効率化を進めるとともに、入試手続きのWeb化を契機として更なる業務改善を図る。</p> <p>⑤【桐光会奨学金】2024年度から2025年度にかけて実施される国の修学支援新制度の拡充の動きを踏まえて、制度のあり方を検討する必要がある。</p> <p>⑥【桐和祭】通常の対面開催とはなったものの入場者数が伸び悩んだ。また模擬店で小火(ぼや)が発生し、火気の取扱いについて課題を残した。</p>

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ① **新【課外活動の活性化】** 2025年度からの実施を目指し、学生会及び学生会本部団体と連携し、要綱作成等に取り組む。
- ② **【特定支援団体チアリーディング部】** チア推薦指定校への働きかけ、チア推薦の新基準の周知、類似競技経験者への声かけ等に注力する。
- ③ **【学生相談室】** 相談室からの情報発信(パンフレットをわかりやすく刷新するなど)を強化し、教職員との連携を積極的にはかる。
- ④ **【新入生データ関係業務】** 入学予定者の手続きフローを入試広報部と連携し整理するほか、手続きに不備があった学生への学生証交付手順等をより効率化する。
- ⑤ **【桐光会奨学金】** 国の修学支援新制度の拡充による影響を見極めながら、奨学金拡充の可否等について議論を行う。
- ⑥ **【桐和祭】** 開催コンセプトの明確化、本部企画の充実、広報活動の強化等を通じて来場者数の大幅増(目標8,000人)を目指す。火気取扱については、出展団体への事前指導と当日の巡回等を徹底し、再発防止を図る。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称（評価单位名称）	委員会・センター
カテゴリー	進路指導		
担当委員会・センター（構成員数）	就職・キャリア委員会(32名)		
担当部署	就職支援部		
記載責任者（役職）	牛山佳菜代学務部長(進路担当)、鈴木あ久利(就職支援部長)		
会議概要（実績回数）	2023年度就職・キャリア委員会議事概要(11回)		
添付エビデンス	2023年度就職・キャリア委員会議事概要(11回)、キャリアブック、保護者のための就職活動支援ガイド		

項目 2022年度 自己点検評価

事業内容	<p>課題と2023年度の改善目標(Action)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 正課授業のキャリア教育について、新たな「キャリア演習」の開講に伴い、低学年から学生に充実したキャリア教育の場を提供し、学生の就職リテラシーを高める。 ② 内定率について、卒業年次の4月より、各月ごとに前年との比較を行い、状況を確認して、学生に対して適切な対策を講じていく。 ③ キャリア研修について、「キャリア研修Ⅰ」がインターシップの入り口として機能し、その後の学生の就活にまつわるアクションにつながっていくかどうか検証する。 ④ 個別の学生相談について、配慮が必要な学生、障害をもつ学生に対しては、学生相談室および学生課とより密に連携し、適切な支援をしていく。 ⑤ 学生の状況把握について、より円滑に、漏れなく行えるよう、学生からの内定報告や進路希望提出について年間スケジュールを作り、委員会でも共有する。 ⑥ 正課外の講座について 授業のキャリア科目担当教員と連携しつつ、年間の就活スケジュールの中で、厳選した講座を効率よく実施する。 ⑦ 保護者対象就職説明会について、事前送付冊子で保護者による認知度を高め、対面の説明会で保護者からの一定の満足度を得られるよう、やり方を工夫する。 ⑧ 合同企業セミナーについて、アフターコロナの環境下、学生が参加しやすく、満足度の得られるセミナーのやり方、関心に繋がる参加企業のリストアップを検討する。 ⑨ 卒業生アンケートおよび企業アンケートの結果を精査し、今後の学生たちの就職活動や自己啓発に供するものとする。 ⑩ 資格取得について、就職・キャリア委員会を通じて、各学科の学びと連動した、役立つ資格の取得を奨励していく。
	<p>改善に向けての具体的な計画(Plan)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 新共通科目「キャリア演習」において、履修者は就職活動に役立つようなコミュニケーション能力を向上させていることをフィードバックにより確認する。 ② 内定率について、全学生への面談を推進するとともに求人検索ナビへの状況登録を強化し、早い時期から実態を掴めるようにしていく。 ③ キャリア研修について、履修した個々の学生について、在学中の就職活動での活動量や社会で活かせる資格取得等を行ったかを追跡する。 ④ 特に個別の支援を要する学生の発見や各学生の就職活動を取り巻く状況や取り組み方を知るために、卒業前年次の全学生面談を実施する。 ⑤ 就職・キャリア委員会において、就職活動に関する最新の情報や就活生のおかれている状況が直接把握できるような、教員のための勉強会を実施する。 ⑥ 3大ガイダンス(インターンシップ、キックオフ、直前)では多数学生の意識を底上げし、個別講座では時流の中でのニーズを掴んだ講座を実施する。 ⑦ 保護者対象就職説明会のアンケート項目に、事前送付の冊子「保護者のための就職活動支援ガイド」に関する項目を追加し、前回アンケート結果に基づく改善を検討する。 ⑧ 合同企業セミナーについて、学生がセミナー参加後は実際の就職活動へスムーズにシフトできるよう、2月～3月の学内就活講座を充実させる。 ⑨ アンケートについて、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケートの活用方法について、就職・キャリア委員会で検討し、実践する。 ⑩ 資格取得について、便覧とは一線を画したキャリアセンターによる「資格リーフレット」を作成し、社会に出てから役立つ資格取得について情報発信と支援を行う。

項目 2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入

1. 取組状況(Do)	<ol style="list-style-type: none"> ① 正課授業のキャリア教育について、新たに共通科目「キャリア演習」を開講し、低学年からキャリアリテラシーがはぐまれるような機会を設けた。 ② 内定率について、卒業年次生の進路および内定状況を掴むべく、2023年度は内定状況に関する電話かけを例年より早く、6月より実施した。 ③ キャリア研修について、「キャリア研修Ⅰ」に続く「キャリア研修Ⅱ」を検討し、新しい運営会社「株式会社メンバーズ」を採用し、2023年度春、新規に実施した。 ④ 全員面談を実施し、配慮学生・障がいを持つ学生については、学生課・学生相談室と月に一度、当該学生の状況を話し合う場を設けた。 ⑤ 学生の状況把握について、学科における取り組みがわかるよう、就職・キャリア委員会後に勉強会を行い、学科毎の取り組みやベストプラクティスなどを共有した。 ⑥ 正課外の講座について、学生の状況を全員面談やガイダンスでの様子で確認しながら、柔軟に開講した。 ⑦ 保護者対象就職説明会について、事前に保護者向けの冊子を送付し、より意識を持ってもらうようにした。 ⑧ 学内合同企業セミナーでは、1月に対面で6社を集めて1日間、2月にZoomに48社を集めて6日間、対面と遠隔を組み合わせた形で実施した。 ⑨ 卒業生アンケートおよび企業アンケートの結果を就職・キャリア委員会に提出し、卒業生の意識や企業側のニーズについて共通理解を深め、その後HPで公表した。 ⑩ 資格取得について、就職・キャリア委員会を通して、学生便覧の資格欄を見直し、新規に資格リーフレット「就職に役立つ資格・検定ガイド」を作成した。
2. 点検・評価(Check)	<ol style="list-style-type: none"> ① 共通科目「キャリア演習」では2年次からキャリア教育専門の専任講師による授業を行い、授業内ワークという経験を重ねて、社会で生きていく力の蓄積を試みた。 ② 早期スタートした電話かけを継続的に行うことによって、キャリア支援の頻度が増し、ひいては98.9%という前年度よりも高い就職率に繋がった。 ③ 未来志向を養成するという趣旨の「キャリア研修Ⅱ」を初めて実施し、「キャリア研修Ⅰ」の参加者を含む11名の履修学生は新たな視点を身に付けることができた。

- ④ 全員面談では、84.9%の学生が参加し、その後のキャリアセンターの継続利用や問題をもつ学生、就職に苦労しそうな学生の発見ができた。
- ⑤ 委員会の勉強会では春学期3回は学内カウンセラー、キャリア教育の専任講師や会社の人事担当者による講演、秋学期4回は学科ごとの事例報告により問題意識を共有した。
- ⑥ 正課外の講座について、クラスルームのみならず、一斉メールや全員面談の機会もとらえて、個別の学生に講座案内を届けて集客に努めた。
- ⑦ 保護者対象就職説明会の事後アンケートの結果は「大変よかった」と「よかった」の合計が89.5%と概ね好評で、全体としては成功したといえる。
- ⑧ 学内合同企業セミナーでは、対面と遠隔を組み合わせた形で実施し、終了後には、すぐに就活準備に繋がるような個別対策講座を設定した。
- ⑨ 卒業生アンケートおよび企業アンケートの質問の仕方や項目の文言等について、わかりやすい、適当なものになっているかどうか、検討し見直した。
- ⑩ 卒業生アンケート等を元に、様々な資格・検定を選別し、実際に取得した学生の声も掲載し、学生に必要な情報になるべく一目でわかるような誌面作りをした。

3. 課題と次年度の改善目標 (Action)

- ① 正課授業のキャリア教育について、「キャリア研修Ⅰ・Ⅱ」及び「キャリア演習」、「仕事と社会」のつながりを重視し、更なる内容の充実を図っていく。
- ② 内定率について、引き続き電話かけを6月から実施し、早い段階で教員と連携し学生の個々の情報を共有していく。
- ③ 「キャリア研修Ⅰ」と「キャリア研修Ⅱ」それぞれの内容の充実を図り、学科・学年等を含め、参加者の拡大に努める。
- ④ キャリアセンターは話しやすい所だという学生からの信頼を得られるように、より話しやすい環境を提供し、参加率を伸ばす。
- ⑤ 就職・キャリア委員会の勉強会がとても為になったという委員が多い為、学内外の講師を適切に選出し、内容を更に充実させて実施していく。
- ⑥ 正課外の講座について、参加人数を増やすために内容を精査し、学生への早めの周知を図っていく。
- ⑦ 保護者対象就職説明会について、開催時期がやや遅いのではないかと意見があり、インターンシップの申込みの時期に合わせて開催時期を検討する。
- ⑧ 対面で早期化しているアフターコロナの就職活動の中で、学内合同企業セミナーのあり方を再度検討する。
- ⑨ 卒業生アンケートおよび企業アンケートを行う際には、検討した内容を反映して行う。また結果を適宜、学生への就活支援、保護者への対応に活かす。
- ⑩ 「就職に役立つ資格・検定ガイド」の発行によって、初年度フィードバックされた意見を参考に次回発行について検討する。

4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)

- ① 正課授業のキャリア教育について、より高い効果を得るために各科目で実施している内容の精査をしていく。
- ② 電話かけをして学生の状況を掴むことと合わせて、各学科、ゼミ教員との情報連携を深め、電話かけをする件数をなるべく少なくしていく。
- ③ 「キャリア研修Ⅱ」の受講要件を前年度同様汎用性の高いものとし、早めに周知して広範囲の学生が履修できるようにする。
- ④ 全事前に職員がカウンセラーのもと研修を行うことで共通の土台作りをし、全員面談後にはアンケートを実施して学生の生の声を掴む。
- ⑤ 就職・キャリア委員会の勉強会では、これまで実施してきた内容のフィードバックを行い、新たな内容を加えていく。
- ⑥ 正課外の講座について、参加人数を増やすための方策として大きいのは教員に声かけをってもらう事であり、そこを強化していく。
- ⑦ 保護者対象就職説明会について、昨今の早期化に呼応し、大学生の保護者対象説明会を3か月早め、6月に実施することとする。
- ⑧ 学内合同企業セミナーへの参加人数の直近の比較により、来年度以降の開催方法や対策を要するかどうかを含めて検討する。
- ⑨ 卒業生アンケートおよび企業アンケートの実施に際して、まずは多くのデータが得られるよう、回収率を上げる努力や工夫をする。
- ⑩ 「就職に役立つ資格・検定ガイド」について、キャリア関係科目や保護者対象就職説明会での配付後、学生・保護者・教職員からの意見等につき、記録しておく。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	学生募集		
担当委員会・センター(構成員数)	入学センター(14名)／新宿キャンパス入試広報委員会(28名)		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス入試広報部		
記載責任者(役職)	太原 孝英(入学センター運営委員会委員長)／鷲谷 正史(入試広報委員会委員長)		
会議概要(実績回数)	入学センター運営委員会(9回)、入試広報委員会(9回)		
添付エビデンス	入学案内、各種募集要項		

項目 2022年度 自己点検評価

課題と2023年度の改善目標(Action)	<p>①【募集活動】進学ガイダンスは受験生の情報源であるため、3年生対象だけでなく1、2年生対象も積極的に参加する。高校訪問は、首都圏(特に一都三県)を中心に訪問する。高校教員対象説明会は引き続き実施し、来場いただいた高校には指定校推薦に関する情報提供ができるように学内の決定を1か月前倒しする。</p> <p>②【入学者選抜日程】2023年度の日程を踏襲する。</p> <p>③【年内選抜(総合・推薦)】総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者を2023年度以上に確保する。</p> <p>④【一般選抜】受験生に併願校として選んでもらうため、③と同様にこまめな情報提供を行う。また、前期日程の入学者数は大きな割合を占めるため、入学者数の確保と偏差値の維持を視野に入れながら慎重に合否判定を行う。</p> <p>⑤【OC】来場型をメインとする運営を前提として、2022年度の受験生来場者数(大学:4710人、短大:591人)を超えることを目指す。また、「WebOC」ページなどWebコンテンツを充実させる。</p> <p>⑥【HP(受験生応援サイト)】本学HPの受験生応援サイトに、2022年度に充実させたコンテンツを活かし、受験生の動向に即したプログラムを随時発信する。オープンキャンパスへ来場できなかった受験生にむけて、Web上で必要な情報を提供することに注力する。</p> <p>⑦【制作物(紙)】受験生等の本学への志望度、出願へのモチベーションアップにつなげられる制作物を目指す。</p> <p>⑧【広告】進学情報サイト(リクルート、マイナビ、ベネッセ等)やSNSを活用し、効率的に本学の受験生応援サイトに誘導する環境整備を行う。広告掲出後の本学ホームページへのアクセス・イベント参加・出願などの数値を計測する。</p>
------------------------	--

改善に向けての具体的な計画(Plan)	<p>①【募集活動】高校訪問は引き続き首都圏を中心に行なう。訪問にあたっては、直近の入学実績、OCの来場者所属校、模擬試験受験時の志望校情報等を活用し、効果的に訪問先を選定する。また、質問されそうな想定問答を学科と検討し、的確な説明ができるよう情報共有を行う。</p> <p>②【入学者選抜日程】2024年度入学者選抜の日程(2022年度中に審議・決定)について、年内入試は2023年度入学者選抜を基に日程を組んだうえで、総合型選抜A・C日程は志願者との面接を行って選考することとした。一般選抜は受験生が併願しやすい日程を検討し調整を図る。</p> <p>③【年内選抜(総合・推薦)】総合型選抜、学校推薦型選抜の志望者は、直接キャンパスへ足を運ぶことで志望度が高くなる傾向にある。そのため、高校訪問、進学ガイダンスにおける説明やWeb媒体やSNSからホームページへの誘導を図り、オープンキャンパスの来場者増を目指す。また、来場者の満足度を上げ出願に結びつける。これにより、総合型選抜及び学校推薦型選抜の入学者を2023年度以上に拡大する。短大は、総合型選抜及び総合型選抜において入学定員を確保する。</p> <p>④【一般選抜】一般選抜の志望者は、進学ガイダンスにおける説明、受験媒体やHPの情報から志望校を検討し、高校教員と相談して併願校を決定している。そのため、受験生の情報収集の行動から漏れないように、高校や塾への訪問、進学情報サイト、WebDM、SNS等を中心とした情報発信を行い、志願者を増やし、全学科の入学者定員確保を目指す。</p> <p>⑤【OC】来場者の出願率を高めるため、各学科のアピールポイントが出し易いプログラムや受験生と在校生の接点が多くなるようなプログラムを実施する。来場者には、SNSを活用し、定期的に情報を提供する。</p> <p>⑥【HP(受験生応援サイト)】サイトトップページから、オープンキャンパスや学科イベントの申込ページまで、受験生応援サイトの導線の利便性を高める。また、当サイトに長く滞在してもらうため、コンテンツの内容を充実させる。</p> <p>⑦【制作物(紙)】Web媒体とのバランスをとりつつ、それぞれの特長を生かしながら制作する。</p> <p>⑧【広告】進学アクセスオンライン、Studyplus Marketing PlatformやGoogleアナリティクス4等のWeb分析システムのデータを活用し、より効果がある媒体広告の選定と展開を行う。</p>
---------------------	---

項目 2023年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入

1. 取組状況(Do)	<p>①【募集活動】高校訪問、進学ガイダンスへの積極的参加(4~12月、3月)、高校教員対象説明会(5月)の実施。</p> <p>②【入学者選抜日程】日程は、原則的に前年度を踏襲した。運用面では、総合型選抜による選考を重視し、A日程において受験者全員と面接を行った。</p> <p>③【年内選抜(総合・推薦)】安全志向の受験生を取り込むべく、年内入試(総合型、推薦)での入学者確保を目指した。</p> <p>④【一般選抜】中期・後期日程の受験者数の減少を見込み、前期日程(特に、全学部統一選抜・一般選抜A日程)による確保を目指した。また、合否判定において、IRから提供された入学後のGPAに関する資料を活用した。</p> <p>⑤【OC等】予約制の来場型オープンキャンパスを計6回(4月、6月、7月、8月(2日間)、9月)開催した。11月は、一般選抜対策講座をオンデマンドで開催した。</p> <p>⑥【HP(受験生応援サイト)】WEB媒体から流入できるコンテンツを充実させた。「ゼミナビ!」に新規14名の先生を追加、受験生の導入及び合格者のぶどまりサイトして情報を両立させた「MEJINAVI」の制作、学生生活の雰囲気伝える「キャンパススナップ」の定期更新など</p> <p>⑦【制作物(紙)】<入学案内>にWebサイトのページへ遷移するQRコードを16学科分設置追加し、受験生サイトへの導線を強化した。また、概要が分かるTOPICSのページを設け、初見でも興味・関心を引く工夫をした。<OCチラシ>各時期の告知内容に併せて制作した。(第一弾)3月上旬~4月上旬に「サキドリ!」の告知(第二弾)4月中旬以降、大学が特待生奨学金、短大は製菓学科体験実習の告知。「MEJINAVI」や各告知内容のWebサイトページへ遷移するQRコードを設定。</p> <p>⑧【広告】Web媒体から本学ホームページへのアクセスを強化した。既存の紙媒体(冊子・DM・FAX等)は、時期や対象(受験生、高校等)を絞って発信した。</p>
-------------	---

2. 点検・評価(Check)

- ①【募集活動】高校訪問及び進学ガイダンスは、岩槻入試課と協働して首都圏を中心に行なった。高校訪問：1764件(前年比：114%)、進学ガイダンス：410件(前年比：168%)。高校からの要請に可能な限り応えた結果、2022年度を上回る訪問活動を行い、多くの高校教員や受験生に接触できた。高校教員対象説明会(5月)は、44校が来場した。
- ②【入学者選抜日程】年内入試の日程は、前年度の日程を踏襲しつつ、A日程で全員面接を実施するなど運用面の改善を図った。一般選抜は、前期日程の入学手続期限と中期日程の試験日を2日後ろ倒した。(2/20⇒2/22)
- ③【年内選抜(総合・推薦)】年内選抜による確保のため、高校教員への広報やオープンキャンパスの動員に注力した。大学の入学者は対前年で115%となった。短大は、志望者が四年制大学に流れる等の影響を受けたことにより、前年並だった。
- ④【一般選抜】大学の一般選抜は、受験生の年内入試シフトの影響を受けて志願者が減少した。例年、全学部統一及び一般選抜A日程は本学への志望度が高い傾向にあるが、前年度比で全学部統一が69%、一般選抜A日程が80%だった。ただ、一般選抜の減少を想定して年内入試による確保を目指していたため、全体の入学定員を超えることができた。
- ⑤【OC】高校訪問や進学ガイダンスによる開催告知、進学情報サイトやSNS等、ホームページで予約しやすい環境を整えたことにより、受験者数 大学：5,182名、短大：531名の来場者を確保することができた。来場者には、「学科の学び」の理解が深められるような構成にしたこと、在校生との接点を増やすことで来場者アンケートの「満足度」95%を確保できた。一般選抜対策講座は、前年度に引き続きWeb開催とした。オンデマンドにしたことで視聴しやすくなり、申込者数が前年度を上回った。(458名 前年比126%、2021年度：361名)
- ⑥【HP(受験生応援サイト)】WEB媒体からの流入を意識した動線を構築したことにより、オープンキャンパスのユーザー数：64,380(前年比：137%)、入学者選抜情報ページのユーザー数：21628(前年比：128%)となった。特に、2月上旬に公開した「MEJINAVI」は、2か月間を比較してユーザー数：21844(前年比126%)だった。
- ⑦【制作物(紙)】入学案内やOCチラシは、資料請求者への郵送や進学ガイダンスで受験生に手渡す資料として活用した。QRコードを設置することで、Webに移行しやすい環境を整備した。
- ⑧【広告】アクセス解析を活用して各広告の効果測定を図り、広告媒体の見直すことができた(掲出時期の変更を含む内容を見直した企画数：26件)。広告媒体から受験生応援サイトへの導線を整備したことにより、アクセス数が対前年で5%を上回った。

3. 課題と次年度の改善目標(Action)

- ①【募集活動】2023年度は、入試システムの導入に伴い、入試担当が関連する業務に従事したため高校訪問、進学ガイダンスのマンパワーが限られることとなったが、業務を調整しながら極力参加するように努めた。高校訪問、進学ガイダンスは高校教員、受験生の重要な情報源であるため、2024年度は入試担当が外出しやすい環境づくりを行い業務効率化を推進する。
- ②【入学者選抜日程】2024年度の日程を踏襲する。
- ③【年内選抜(総合・推薦)】総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者を2024年度以上に確保するため、学校推薦型選抜の出願要件を各学科と検討し、高校ランク別に評定平均値をきめ細かく設定した。
- ④【一般選抜】受験生に併願校として選んでもらうため、③と同様にこまめな情報提供を行う。また、前期日程の入学者数は大きな割合を占めるため、入学者数の確保と偏差値の維持を視野に入れながら慎重に可否判定を行う。
- ⑤【OC】2023年度の受験生来場者数(大学：5183人、短大：549人)を超えることを目指す。また、「WebOC」ページなどWebコンテンツを充実させる。
- ⑥【HP(受験生応援サイト)】本学HPの受験生応援サイトに、2022年度に充実させたコンテンツを活かし、受験生の動向に即したプログラムを随時発信する。オープンキャンパスへ来場できなかった受験生にむけて、Web上で必要な情報を提供することに注力する。
- ⑦【制作物(紙)】受験生等の本学への志望度、出願へのモチベーションアップにつなげられる制作物を旨とする。
- ⑧【広告】受験生が利用する進学情報サイト(リクルート、マイナビ、ベネッセ等)を活用し、効率的に本学の受験生応援サイトに誘導する環境作りを継続する。広告掲出後の本学ホームページへのアクセス・イベント参加・出願などの数値を計測し、対象となるターゲットにむけてWEB広告を発信する。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ①【募集活動】高校訪問は、引き続き首都圏を中心に行なう。また、首都圏以外の地域については、全学部統一選抜の学外会場の周辺地域を優先して展開する。
- ②【入学者選抜日程】2025年度入学者選抜の日程(2023年度中に審議・決定)について、年内入試は2024年度入学者選抜を基に日程を組んだうえで、総合型選抜A・C日程は志願者との面接を行って選考することとした。一般選抜は受験生が併願しやすい日程を検討し調整を図る。
- ③【年内選抜(総合・推薦)】総合型選抜、学校推薦型選抜の志望者は、直接キャンパスへ足を運ぶことで志望度が高くなる傾向にある。そのため、高校訪問、進学ガイダンスにおける説明やWeb媒体やSNSからホームページへの誘導を図り、オープンキャンパスの来場者増を目指す。
- ④【一般選抜】一般選抜の志望者は、進学ガイダンスにおける説明、受験媒体やHPの情報から志望校を検討し、高校教員と相談して併願校を決定している。そのため、受験生の情報収集の行動から漏れないように、高校や塾への訪問、進学情報サイト、WebDM、SNS等を中心とした情報発信を行い、併願の志願者を増やす。
- ⑤【OC】オープンキャンパス来場者の出願率を高めるため、各学科のアピールポイントが出し易いプログラムや受験生と在校生の接点が多くなるようなプログラムを実施する。来場者には、SNSを活用し、定期的に情報を提供する。
- ⑥【HP(受験生応援サイト)】サイトトップページから、オープンキャンパスや学科イベントの申込ページまで、受験生応援サイトの導線の利便性を高める。また、当サイトに長く滞在してもらうため、コンテンツの内容を充実させる。
- ⑦【制作物(紙)】Web媒体とのバランスをとりつつ、それぞれの特長を生かしながら制作する。
- ⑧【広告】進学アクセスオンライン、Studyplus Marketing PlatformやGoogleアナリティクス4等のWeb分析システムのデータを活用し、より効果がある媒体広告の選定と展開を行う。

2023年度 目白大学短期大学部 自己点検評価年次報告書

編集：目白大学・目白大学短期大学部内部質保証委員会（短期大学部部会）

発行：2024年7月

